贈賞式は協会にしやかに華

長門裕之氏らへ

久保田賞は見送り

第六回日本放送作家協会賞の贈賞式は、五月十八日午後六時より帝国ホテル孔雀の間において行われた。受賞者は各界の著名人及び協会員など約六百五十名より心からの祝福を受け、式後パーティにうつり、なごやかな歓談ののち、午後八時半散会した。なお当日第三回久保田万太郎賞の贈賞式も合せて行う予定であったが、久保田賞の性格づけを新ためて検討するという意味あいから、来年度に見送ることとなった。

六時、日本室内楽団の演奏と共に梅田常務理事の開会の辞がありついで大林理事長より、「本来ならば本日は協会賞と久保田万太郎賞の贈呈式を行うのであるが、久保田賞については、本年度は該当者無しとなった。これは前年度にすぐれた作品がなかったというのではなく、むしろレベルが向上しその中から一つ二つの作品をとりあげ難く、数次の委員会においても結論出ず、高橋誠一郎先生をはじめ各審査員の先生方ともご相談の上、久保田万太郎賞の性格などもう一度検討することとしたためである」との挨拶があり、続いて寺島常務理事の司会により協会賞贈呈式が行なわれた。

まず、企画賞ドラマ部門「日産スター劇場」スタッフを代表したNTV今村芸能局長をはじめ、受賞者一同にブロンズ像と賞状を贈った。

続いて文部省文化局長蒲生芳郎氏、日本芸術院院長高橋誠一郎氏、日本放送協会会長代理として芸能局長坂本朝一氏、社団法人日本民間放送連盟会長足立正氏の代理として同連盟理事、RKB毎日放送株式会社社長金子秀三氏よりそれぞれ祝辞があった。（別欄参照）

ついで「マジメ人間」の作家山口瞳氏から長門裕之氏へ、その他各関係者から受賞者へ花束の贈呈があって贈呈式を終り、衆議院議員辻寛一氏の音頭で乾杯してパーティーに入った。

協会賞式典委員長金員省三氏から挨拶のあと、沖正宗寄贈の四斗樽の鏡を抜き、黒柳徹子、一竜斎貞鳳両氏の司会で参会者の男性全員がつけひげをつけるという珍趣向もあり、はれやかな受賞者諸氏と歓談ののち散会した。

各界からの祝詞

文部省文化局長　蒲生芳郎氏

今、賞をお受けになった皆様にまずもってお祝いを申上げます。

この賞の趣旨は放送作家のお仕事と関係のある分野の方々へ協会が感謝の気持ちを込めて贈られる賞と伺っておりますが、日頃ラジオテレビに親しんでいる私共にとりましても、誠に共感を禁じえない良いお企てであると存じます。この様な権威のある賞を受けられました皆様方におかれましては、どうか今後とも益々ご研鑽ご活躍いただきまして、国民教養の向上放送文化の発展のために一層ご尽力いただきたいと存じます。協会が社団法人として発足されたのが四年前と記憶しておりますが、その間におきます協会のご活躍ぶりは実にめざましいものがございまして、この間世上の話題もさまざまになっているのでございますが、このよい機会をお借りしまして、ここに厚くお礼を申上げます。

文部省も、ご承知の通り、この五月から文化局を作りまして、今後益々関係各界と接触を密にし、そのご意見などを出来るだけ行政面に反映させてゆきたいと念じておりますので、どうか皆様方のご協力を宜しくお願い申上げます。

日本芸術院々長　高橋誠一郎氏

本日ここに第六回日本放送作家協会賞贈賞式の挙行に当り、協会関係者ならびに受賞者各位に対しまして、心からお祝いを申述べます。これを機と致しまして放送作家協会は放送文化の向上にいよいよ力を尽くされ、また受賞者各位は益々精進努力を積まれますよう希望いたします。これをもちまして祝辞と致します。

日本放送協会会長　前田義徳氏（代理芸能局長　坂本朝一氏）

最近の世界の放送界は通信衛星による宇宙中継をはじめとして、まさに視聴者の目と耳を奪う程の発展をとげておりますが、わが国の放送界もまた世界の水準に伍して隆々たる進運を見せていることは、まことに御同慶に堪えない所であります。

しかしながら、わが国放送の発展は決して一朝に築かれたものではなく、永い年月に及ぶ作家各位のたゆまぬ御精進と力強い御協力に負うところきわめて大きいことは申すまでもありません。

日本放送作家協会におかれましては、昭和三十六年以来放送作家協会賞を設けられ、わが国放送界の向上発展に貢献されて参ったのでありますが、本日はNHKも、「大衆芸能賞」として、「お笑い三人組」を、また「特別賞」として「FM名作劇場」を表彰される光栄に浴したのでございます。

（お笑い三人組）は、昭和三十年から本年三月まで十年間にわたり、家庭向け娯楽番組として、連続放送された番組でございまして、この間世上の話題もさまざまに開始四十年を記念して昨年四月以来、ラジオ・ドラマの名作を放送して参ったのでありますが、この番組の意義が「特別賞」として認められましたことは、NHKにとりまして、まことに望外の喜びと申さねばなりません。

ここに演協会の御活動に対して心から敬意を表しますと共に、併せて将来の御発展をお祈りする次第であります。

社団法人日本民間放送連盟会長足立正氏（代理　RKB毎日放送社長　金子秀三氏）

本日は、第六回日本放送作家協会賞の授賞式にお招きを受け、ご挨拶を申上げる機会を得ました事は、誠に光栄でございます。作家協会賞が設けられて今年ではや六回目を迎え、年々年を加える毎にその権威を増し、放送番組の向上に寄与されている事はご同慶に堪えません。しかも今回の授賞に当りましては、多くの民間放送の作品が選ばれておりますことは、非常に光栄でございます。ここ数年来、放送番組につきましていろいろの意見や批判がありましたが、一昨年、NHKと民放とが協力して、放送番組向上委員会を設置し番組向上に努めております。又民放各社は、番組審議会を設置すると共に、民放連におきましても、番組審議会委員による懇談会を、あるいはその在京の各局持廻りで支社長の生の声を聞く懇談会を開催してその実をあげております。かように放送番組の質的向上を目的とし、かつ自主統制を強化して社会の期待に応えるための努力を重ねている次第でございます。

私共は、自主規制を強化することこそ言論表現の自由を守る最善の方法である事を確信しており、今後一層努力をつくしたい考えであります。

作家協会の皆様方におかれましても、私共民間放送の番組の質的向上に対する努力をご理解いただきまして、今後ともよろしくご協力賜ります。

（お願い）お願い申上げます。

NTV芸能局長　今村一郎氏

昭和三十八年十一月に発足しましてから二年半ほどになりますがプロデューサーとディレクターをわけたいわゆるプロデューサーシステムに致しまして、みるべき視聴率の域に達しております。今後この番組のコメディードラマ路線の中で夫婦喜劇とかロマンチックコメディといったものに人情喜劇を加え、中間小説に類する中間コメディーといったものを生みだしてゆき、今回の受賞に応えたいと思っています。

毎日放送東京支社長富田清之助氏

このような番組でしかも大阪局として賞をいただいた事を非常に嬉しく感激しております。この様な番組を提供いただいておる住友金属さんの並々ならぬご努力に対しても敬意を表したいと思いますさき程良い気分で飲んでおりましたら「ああいう番組は我方の局にも少しくれ」というようなお話も早速あり、ご希望の向はどしどしお申出下さい。早速商売にかかり恐縮ですが、皆様方の絶大なご援助により、この映えある受賞を厚く感謝致します。

与えられるのではなく、新人発見又はこの辺でほめておけばもっと良いものが出来るのではないかというお気持が含まれているものと考え有難くお受けしました。実はあの番組は柴野という仲間と二人で交代で演出しており、演出者賞というより演出賞ということでここに二人並んでトロフィーをいただけたら尚嬉しかったと思います。

（CM作品賞）

文明堂常務取締役　岡本光氏

短いCMの中で良いものを作ろうとするのは仲々難しいが、たまたまパーク夫妻の動物の縫人形を使って、今までの「カステラ一番電話は二番」のキャッチフレーズを画面の中にうまくとけこませるかに苦労しましたが、そうオリジナリティを認められるものでなく、これを機会に、商品ともども今後もCMの面でも良いものを作ってゆきたいと考えております。

（大衆芸能賞）

NHK第一制作部　林　濤氏

制作者として花束をいただきましたので、ディレクターと一竜斎貞鳳さんに「三人組」を代表して挨拶をしていただきます。

一竜斎貞鳳氏

白痴番組だとかバカだとかチョンだとか云われながらも、二十九才からまる十年間やらせていただき四十一才になった男ですが、朝日新聞にサザエさんが続く限りやりたいと、私はライフワークのつもりでおりましたが、素大なマンモス機構のいしずえとなり寒くも散ったのですが、作家の先生方のお陰でカンフルを打って貰い、一人一人全中分解してはおりますがそれぞれの道で今日の受賞の栄を身につけて一層懸命やりたいと思います。

NHK第一制作部　久米昭二氏

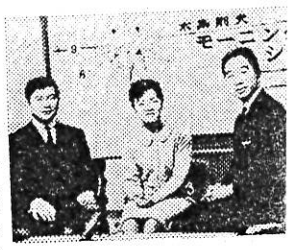
お陰様で賞と云うものを初めていただきまして……。もっとも私一人でなく関係者一同と云うわけで、ここに田辺君の貞鳳さんと制作の林さんと演出の私と、「三人組」が三人揃いましてお礼の言葉をのべたいと思います。

（特別賞）

NHK第一制作部　工藤芳男氏

丁度一年でこうゆう立派な賞をいただくのは私も思ってもみない事でございます。只、ラジオドラマの歴史は非常に古いのですが、その作品を汚さないように再制作をして放送しているわけです。今後とも続けてゆきたいと思いますのでご支援をお願いしたいと思います。

「木島則夫モーニングショー」栗原玲児氏



明朝広島から中継という事で失礼させていただきました。我々トリオが出来上ったのは全くの偶然でしたが、それが良い偶然となり民放の朝の時間の開拓に幾らかでも力があったといわれるなら、これに過ぎる喜びはございません。もう沢山競争相手がでてきた事ですし、あと一年もやって止めても我々三人とも悔いはないと申しております。

（男性演技者賞）

長門裕之氏代理南田洋子さん

本人は長門が向ってご挨拶をしなければいけないのですけれど、丁度大阪の舞台に出ておりまして今日伺えなくて非常に残念がっておりました。私考えてみますと、彼はここ二、三年の非常に忙しい仕事の中で、この賞をいただき、その事について非常に喜んで感激しておりました。でもその喜びにも増して何か愛の鞭をいただいた様なそんな気がするともムッておりました。私も役者ですし彼のそう云う気持が非常に良く判りますけれども、私も彼の女房としてこのブロンズと共に今後彼を厳しく見守ってゆきたいと思います。

（女性演技者賞）小山明子さん

この度は素晴しい賞をいただきまして……。私、この世界に入り、本当に初めて賞を名がつくいただきました。私は一作ごとに賞には無縁であろうと思っておりましたので、この度の賞をいただきまして大変嬉しく思っております。これからも皆さまの

ご芳志

（順不同）

日本放送協会、フジテレビ、ニッポン放送、毎日新聞社、共同通信社、東京放送、小林山経理事務所、日本テレビジョン、アサヒ、ロ、創造社、ニッ

TV ガイド
本邦唯一のテレビ大衆週刊誌!!
週
そ
み
こ
週
一
予
T
欠
週

の地位向上のために

協会理事長 伊馬春部

これからの協会

常務理事 西島大

ある今日、これはまったく矛盾かつ不可思議な現状と申すの他ありません。

然らば、われわれ放送作家の地位を高からしめるためには、何が絶対不可欠か、外部的にもまた内部的にも省察しなければならない時機に達していると思うものであります。

「日本放送作家組合」結成以来わが「日本放送作家協会」の性格も、徐々に変りつつあると思うもの

わたしはごく素朴に、われわれの協会は、放送作家が集って、放送作家の眼で、よりよき放送とは何かを考え、その実現に力をつくす場だと考えている。

そういう考えに立って、昨年十一月の新理事会発足以来、常務理事という職責を果して来たつもりだ。むろん、十二分に果せたとはわたし自身も思っていないし、まして協会員や外部の人の眼から見れば、何をやっているのかと腹立たしい思いをされていることでもあろう。

何分にも、協会にとっては大へんな一年だった。五月の通常総会における新理事会の発足、選挙法の設定、そして十一月の臨時総会における新々理事会の成立、その間、協会のあり方をめぐって、活発な論議が闘わされた。いまになって思えば、多分に感情的な論争も少くはなかったと思う。そういうマイナス点はあったにせよ、然しわたしは、これまで無関心であった協会員に、協会のあり方について考える機会を与えたことだけでも、協会の今年は、大いに意義のあった一年だと考える。

わたしは冒頭に、「放送作家の眼で、よりよき放送とは何かを考え」と、書いた。だが、そう書いただけで、実際にはどう考え、どう努力して来たかといわれると、大いに忸怩たるものがある。でもまあ、その辺は少し長い眼で見ていただきたい。それに、こんなことは、わたし一人が努力してみたとする今日、これはまったく矛盾かつ不可思議な現状と申すの他ありません。

然らば、われわれ放送作家の地位を高からしめるためには、何が絶対不可欠か、外部的にもまた内部的にも省察しなければならない時機に達していると思うものであります。

「日本放送作家組合」結成以来わが「日本放送作家協会」の性格も、徐々に変りつつあると思うもの

部的にも省察しなければならない時機に達していると思うものであります。

「日本放送作家組合」結成以来わが「日本放送作家協会」の性格も、徐々に変りつつあると思うもの

常に期日に間に合い、所定の時間の枠に嵌まるものの製作のみに専念する。そしてたわいのない節に打ち興じれば能事足れりとする傾向が強くなっている。

何も深刻な人生の奥所にまで掘り下げる芸術を求めているのではないが、お粗末、お手軽方式が跋扈することに不快を覚えているのである。大衆は安ものやお手軽を好んでいるのではなく、潮流となっているのに、

析しても、生々とした面白味は出てこないのである。大衆の中に自分をも含めて、面白さを探究する必要がもっとあると思うのである。自分が退屈だと思うものを無理に上演してはないかと疑うほど、放送劇は退屈であり、演出もまた味も素ッ気もなくなっている。チャンバラ劇は面白いが殺陣の形式が千遍一律で、何の変化も工風もない。チャンバラ場面へくると演出家は息を抜いて殺陣師に任せて一服している感じである。

言うなれば努力不足という感を深くする。簡便主義が世相となり、潮流となっているのに、

う悪かろう

庁長官 今日出海

カネ・カネ・カネに堕したテレビ番組

放送文化研究委員長 松田暢子

TV産業の利潤が頭打ちになり企業合理化の名によって、各局から夥しい数のスタジオ制作ドラマが姿を消し、代りにクイズ、ショー、スポーツ中継と共に、多くの粗製フィルムドラマが登場した。スタジオ制作ドラマの視聴率低下は激しい批判を浴びせられるにも拘わらず、フィルムドラマの視聴率の低さは批判の対象にならない。それは何よりも制作費が安いからである。

同じ理由で、朝っぱらから近親ードにセックス談義と、昭和元禄ハレンチ番組が氾濫し止まる処を知らない。

こうしたテレビ番組制作の現実を、我々はあまりにもバカ正直に受け入れすぎてはいまいか?。茶の間に直結するマスメディアの担い手として、このへんでもう一度「テレビとは何か?」を考える必要があるのではないか?。

放送文化研究委員会は、放送作家のそのような願いをこめて「流動甚しい放送の現実をつねに現在内容は、リサーチ、シンポジュウム、PRの三つの班に分れ、よりよい仕事をするための番組制作事情のリサーチ。放送及び放送作家の基本的姿勢について共通の認識を、つねに現在の時点で把握するためのシンポジュウム、そして今までのジャーナリストその他に一方的発言を許していた、放送作家自身の発言をよりよい番組を作るためのキャンペーンにまで高めようと言うのがPRである。

活動の中心は、シンポジュウムで、これは近い将来に、放送作家(放作・シナリオ作)タレント、放送局、映画会社、代理店、CM関係者、スポンサー、テレビ技術関係その他経済社会学者を含めた全放送人を糾合した大シンポジュウム開催を目標にしている。

以上、各人仕事をかかえながらの活動でままならぬ点も多いが、

協会賞きまる

日本放送作家協会は、第九回日本放送作家協会賞(昭和四十三年放送分)の受賞者と受賞作品を次の人たちに決定した。

△最優秀番組賞
ひょっこりひょうたん島
(NHK)
私の昭和史
(東京12チャンネル)

△演出者賞
テレビ部門
ボーラ名作劇場の演出者グループ
(NET)
ラジオ部門
香西久
(NHK)

△男性演技者賞
川崎敏三

△女性演技者賞
栗原小巻

△大衆芸能賞
一竜斉貞鳳

△CM作品賞

会館建設の夢によせて

常務理事 高橋玄洋

これは日本の国全体の傾向だと思うが、文化団体は総じて貧しいやりくりに追われている。協会の財務を担当してみて今その窮状をおそまきながらひしひしと感じさせられている処である。

ところが国際会議などにおける日本の会費は極めて上位にランクされており、これの捻出だけに大変な苦労を重ねている団体もあるという。

私は日本の政府や企業が文化事業に理解がうすく、文化国家を標榜しながら一般市民も関心がないからだと思っていた。

併し、よく考えてみると、決して無理解でも無関心でもない、むしろ甘やかされているのが日本の文化団体のようである。寄付、助成金、賛助会費と名目は違うが様々な形で理解が示されている。むしろ問題は文化団体自身の甘え方

これ自身に係わることは組合に安心して任せ、放送で食べさせて貰っているお礼に、あるいはまた芸術一家であるという誇りから、少しは日本の文化のことも考えようと、わたしは思う。

作家教室のことなど

教室委員長 伊藤海彦

人が人に何かを教えるということは本当のところ不可能なことだと私は思う。非常に基礎的な幼稚園や小学校での教科範囲を別として。まして、新しい作家が何かを教えることですぐさま誕生してくるなどとは考えてもいない。だがそれだからといってただ手をこまねいているわけにはいかない。新会の放送作家教室、CM教室、それに昨年十月から新設されたゼミナール形式の研修科はそれぞれ新しい年度を迎え、すでに銀座電通みゆき別館の教室で講義が始っている。今年はその教科課程において従来よりさらに緻密な展開が考えられ、それはおそらく来年度、他では作り得ない一貫した放送脚本技術習得のためのテキストにまう新人会は、送られてくる原稿をよむ講師を広げ、あらゆる期待にこたえようとしている。

表現しようとしている人間の、めいめいが持ち合わせている可能性。それを刺激すること。埋れている何かを掘りおこす手づだいをすること。この仕事に力をかしてくれているすぐれた作家諸氏はそうした本当の意味での教育を為し得る人たちばかりだ。この教室から巣立ってゆく人たちが一人でも多く全く新しい視野で先輩たちをおびやかして欲しいものだ。そして私としては放送局やスポンサー……外部の方たちにお願いしたい。どうかはばたいた新しいものを

協会を運営している人々

協会は、現在、理事長伊馬春部常務理事高橋玄洋、西島大、早坂暁、以下、左記の理事、監事によって運営されています。理事、秋田実、伊藤海彦、伊藤裕弘、岩間芳樹、内村直也、内山惣十郎、大垣肇、大林清、香住春吾、キノトール、篭田寫人、田井洋子、竹内勇太郎、津田幸夫、寺島アキ子、西沢実、久板栄二郎、北条誠、松田暢子、宮田達男、吉田文五、亜事、土岐雄三、木田英郎。

ア解事項

日本放送協会
放送業務局長 川鳴浩

円)で受付けている。
希望者は事務局へどうぞ。

★支部所在地★
関　西・大阪市西区うつぼ1—51
電通うつぼ別館 △441—6018
中　部・春日井市神明町49—16波多方
△31—3418
九　州・福岡市西区荒江団地15—101
帯谷方　△85—3457
北海道・札幌市豊平区平岸1条5—2
平岸スターハイツB7—401
近藤洋方　△831—5783
中　国・広島市上幟町8—33 流川幼
稚園内　△21—5493

放送作家ニュース

★発　行★
協同組合　日本放送作家組合
東京都港区六本木
6—2—5ハラビル内
電話　404—6761(代)
発行人　大林　清
毎月1回1日発行
定価23円

第14回協会賞贈賞者きまる

優秀番組賞（ドラマ部門）
それぞれの秋（木下プロ）・けったいな人々（NHK）・新八犬伝（NHK）・つくし誰の子（NTV）・五木寛之シリーズ（QR）
同（非ドラマ部門）
天皇の世紀（ABC）・スポットライト（NHK）・海外取材、文明と食生活（NHK）・ヤングオーオー（MBS）
演出者賞　井下　靖央（TBS）
「それぞれの秋の演出」
男性演技者賞　高橋英樹「国盗り物語・ぶらり新兵衛の演技」
女性演技者賞　高森和子「けったいな人々の演技」
大衆芸能賞（演芸部門）　月の家円鏡「午後2時の男 他」
同（ショウ部門）　愛川欽也「ディスクジョッキー他」
CM作品賞　ミノルタカメラKK「愛川欽也・研ナオコ出演のCM」

第14回日本放送作家協会賞は、会員アンケートに基づき各賞委員会が慎重な討議審査を行った結果昭和四十九年度第2回理事会において右のように決定した。

本年度の選考決定に関して協会賞委員会委員長の久板栄二郎氏は次のように語った。

「優秀番組賞については、近年ドラマおよび非ドラマの番組が多様化したために票数が伯仲して、決しかねるようなものがでてきたので、本年からドラマ・非ドラマとわけてそれぞれ概ね五本ほどの作品を選ぶことになった。ドラマ部門はこれで落ちついたが、非ドラマ部門にあがっていたLFの〝早起きもい

新理事長に田井氏

常務理事三氏は留任

去る六月三日午後二時から六本木の事務局で日本放送作家協会の新理事会が開かれ、理事長、常務理事が互選された。新理事長に田井洋子氏。常務理事に西島大、水原明人、西沢実の三氏が就任した四氏は就任に当って抱負を次のように語った。

責務の重さを痛感

田井洋子

この度本協会の役員改選に当り図らずも、私が理事長の任務を仰せつかりました事は、望外の光栄とは存じますが、その責務の重さに困惑致して居ります。

思えば昭和三十四年協会創立当時より、諸先輩の並々ならぬご努力ご苦労を見、感謝の念に耐えられませんでした。以来十五年間の歩みの上に現在の基礎を確立し得たことはご同慶の至りですが、今後の発展もまた内外諸先輩及協会員皆様のご理解とご協力に俟たねばなりません。

放送文化の向上を軸として、作家協会のあり方をみつめ、関係諸団体との交流を通して相互の信頼を深めてゆきたいと存じます。皆様の御支援を心よりお願い申し上げます。

願い二つ

西島　大

何が何でも留任はしないぞという気持と、去年から始めた新しい事業との関連で、このまま辞めてしまっては無責任かなという気持が交錯して、整理がつかないまま理事会へ出席した。

選ばれた以上、愚痴はいうまいと思うが、自分本来の仕事には眼に引きつるまでのがまん、とあきらめて、任期を全うしたい。

私の大きな任務は、協会財政の健全化である。協会は、長い間、慢性的な赤字財政を続けて来た。どこかで思い切った手を打たないと、やがて団体の基礎までゆらいで来る。手綱の引きしめは恨まれ役で損な話だが、何とか、任期中に将来の見通しの立てられるところまでやりとげたいと思う。

会員の皆さんの協力を切に願っている。

財政の健全化を

水原明人

田井新理事長の下でもう一期、前の仕事を続けることになった。昨年、放送文化講座がスタートして以来、協会の仕事は急にふえて、本職とかけ持ちの身には大へんつらい。しかし、これも後任者が、その頃こうしたことはこれで、芸者に扮した売れッ子女優が「たま代はいらないよ」と言ったのを聞いて吹きだしたことがある。台本の玉代をその保たま代と読んだので、これでは「ぎょく代」を知っている者も知らない若い人たちも、何のことか判らない

随聞駄話

眼

数年前、テレビの時代劇の中に限らず相当にあって視聴者の笑いものになっていたが、これが今日尚一向に改っていない事実は一驚に価する。

捕物劇が出れば文盲に等しいはずのドッ引の口から「不審のかとがある」とか「男のメンツが立たねえ」とか「徹底的に取調べる」とか、現代語や中国語までぽんぽんとびだしてハラハラさせるし、ときには「考証何某」と専門家の考証したドラマにまで誤りがあるのは、考証家が判り易くするため故意にしたものと思うのだが？　知人の話では江戸時代の銭勘定に「一両二分と八朱」というのがあったそうだが、こういう人が時代物の台本を書く神経はちょっと判りかねる。勿論私にもそれに近い誤りは時折あって他人様のことは言えないが、少なくとも疑問があれば調べて書く。調べることすらしない作家があると思うほかはない。

こうした国語の乱れは敢て放送の世界だけではないらしく、某新聞紙上で文芸批評家が指摘しているものの中に、さる文芸同人誌の編集後記に「自分たちは桐だと思っているが、ついに桐にはなれない。〝あすなろ〟であるかもしれない。しかし、何とか桐に育つよう努力したい」とあったのを読んでびっくりしたとある。桐と桐の誤りでこれもちょっと調べれば判るはずだが、貧乏な漁師のことを「水呑み漁師」と書くに至っては…「水呑み百姓」があるのだから漁師でも同じことだろうと思って書いたのだろうが、これはもう救いようがない。

テレビのこうした誤りは作家の努力と制作者の注意とで相当程度防げるはずなのだが、当人たちにその気がなければ仕様のないことで「安い台本料でそこまで努力はできないよ」とか「忙しくてとてもそこまでは手が回らないな」では作家とテレビ局の恥を天下にさらすより仕方がない。「人の噂も七十五日」というコメデーの題名の七十五日が七日になっていたので注意したら「スピード時代だから七日でいいでしょう」とその侭放映する制作者のいる間はまず絶望的というほかはあるまい。然しそうした意地悪な眼で時代物を見るのも亦一興なのだが……

（松浦泉三郎）

盲暴三選

西沢実

二期目である。決していいとはいえない。二期目で私の思っていたこと、ご賛同願ったことの大半はしつくした。あと、し残げたことといったら、会費値上げの実施つまり財政の安定と、もうひとつは、なんとかしていたわりあってことを進めていきたい……という願いくらいのものである。

ぐちになるが、理事会での選任をひたすら辞退したのに、票決になって、このていたらくである。全くやめるつもりであったので、引継準備はしてあったが、抱負は全くない。新しい田井理事長に心配かけないようにということと、なんとかうまく岡本克巳理事あたりにあとのことをたのんで……と、けしからぬことを考えている。

新役員決まる

放作協通常総会

社団法人日本放送作家協会の第十三回通常総会は、五月二十三日午後一時から、六本木の事務局会議室で開かれた。

定款により、大林理事長が議長となり、出席者三〇四名（内委任二七七名）で定足数に達していることを確認し開会、審議に入った。

第一号議案「昭和四十九年度事業計画および収支予算についての事項」

大林理事長から、昭和四十九年度事業計画について報告、西沢常務理事から、事業報告があり、つづいて各支部からの報告があった。

九州支部（帯谷瑛之介氏）放送文化講座が成功し、ぜひ続けてほしいという声が出ている。FM分野に力を入れたいが、いろいろ困難が多い。

中国支部（吉田文五氏）放送文化講座は好評で、放送作家の存在を知らせていくことの重要性を感じている。続けたい。

関西支部（梅林貴久年氏）昨年は、組合の方でキャラアップに大半を費した。今年は幹事ともはかって放送文化講座を実施したい。

中部支部（旗ひさし氏）放送文化講座は独自の様式で実施したが今年は講演会のかたちにしていきたい。

北海道支部（近藤洋氏）放送文化講座は好評であった。少ない会員だがやる気をもっているので、放送脚本集（テレビドラマ編）の刊行も実施したい。

つづいて収支決算について水原常務理事から報告があり、すべて承認された。

第三号議案「財産目録および貸借対照表についての事項」

小檜山顧問経理士から報告をうけ質疑ののち承認。

第四号議案「役員選出についての事項」

伊豆海選挙管理委員長から選挙に関する報告があり、拍手で確認し、新役員が選任された。

役員は、（理事）西沢実、田井洋子、寺田太郎、水原明人、北條誠、久板栄二郎、岡本克巳、伊馬春部、寺島アキ子、岡本克巳、伊馬春部、神津友好、来宮洋一、野口いさを、香住春吾、茂木草介、小島貞二、横光晃、内村直也、大林清、帯谷瑛之介、西条道彦、石井清司、松本重美、上野一雄（監事）本田英郎、高橋玄洋（立候補届出順）

第五号議案「その他」

選挙規約の件（役員の任期、選管委員の任期）について意見があり、了承の上、午後二時五〇分閉会した。

第二号議案「昭和四十八年度事業報告および収支決算についての事項」

CM・ファッション
新人モデル

カラー録

支部所在地
関西・大阪市西区うつぼ1－51 電通うつぼ別館 △441～6018
中部・春日井市神明町49－16 △31～3418
九州・福岡市住吉2－15－20 帯谷方
北海道・札幌市平岸木の花団地30－203近藤洋方△831～5783
中国・広島市上幟町8－33流川幼稚園内△21～5493

放送作家ニュース

第13回協会賞受賞者き

贈賞式・祝賀パーティーは5月21日

伊東番組賞
「赤ひげ」（NHK）
演出者賞
石橋　冠（NTV）
男性演技者賞
萩原健一
「太陽にほえろ！」
女性演技者賞
松坂慶子
「若い人」「鉄平と順子」「白い夏」
大衆芸能賞
演芸部門
ミヤコ蝶々
「夫婦善哉」
ショー部門
ザ・ドリフターズ
「8時だヨ！全員集合」
CM作品賞
ソニー株式会社
「サワガニの親子」「タコの赤ちゃん」シリーズ
番組特別賞
「レオナルド・ダ・ビンチの生涯」（イタリア国営RAI・TV制作）
特別賞
田中忠夫（JOLF）
永年に亘るラジオ演出の功績に対して

第十三回日本放送作家協会賞は三回にわたるアンケートにもとづき、各賞委員会が慎重に審査した結果、次の諸氏に贈られる。

総会準備進む

放作協理事会から

日本放送作家協会の昭和四十八年度第一回理事会は四月十七日午後二時から六本木の事務局で開かれた。当日は、大林清、西沢実、西島大、水原明人、石井きよし、伊馬春部、来宮洋一、神津友好、小島貞二、醍醐忠、田井洋子、寺島アキ子、寺田太郎、久板栄二郎（委任十一氏）の各氏が出席。

議題とその内容は次の通り。

第一号議案「総会準備に関する件」

西沢常務から昭和四十八年度事業計画書および昭和四十七年度事業報告書について報告説明、引続いて西島常務から若干補足説明があり、水原常務から昭和四十八年度予算案、昭和四十七年度決算について報告説明があり一括承認された。

第二号議案「委員会報告」

協会賞委（久板）＝各賞委員会から選考結果について報告があり別掲のごとく各部門賞が決定された

規約委（西沢代）＝佐々木恵美子さんの後任に尾崎碧瑛子さんの推薦があり了承。

広報委（来宮）＝年鑑の発行は四月二十七日の予定。

放送文化研究委（西島代）＝青島幸男氏を囲んでの座談会の件は青島氏多忙のため、延期し、委員会中心の座談会を企画していく。

放送文化事業委（石井）＝伊東での親睦会について報告をうけ了承した。今後、ゴルフ、スキー等の親睦会を行う予定。（別掲）

第三号議案「三月度決算報告」

報告をうけ承認。

伊東親睦会の御報告

石井きよし

三・三・五・五に、静岡県伊東は「伊東園」ホテルの一室に、放送作家協会の面々が集結していた。総勢十四名。とき、三月十三日の夕。〝紅〟三点、石島菊枝、寺島アキ子、片山明子。野郎共、上野一雄、大林清、小泉源太郎、渡辺利弥、小島貞二、水原明人、塩川寿一、伊東三平、田辺虎男、石井きよし、柴田俊朗――。

打ち入りよろしく、丹前姿も珍妙に、夜ともなれば〝わずか〟ばかりの芸妓を前に酒くみ交わす。貞二の土佐入り披露、アキ子の民謡、源太郎のドドイツ、果ては芸妓をかきくどく奴等々。夜も更かまれば、〝芸術観賞〟なんぞと言って、極秘映像の総見。菊枝、アキ子らも、マージャン打つ手をしばし……。

そのまま、早暁の釣りに行く者共。翌朝は、サザンクロスで、協会称ゴルフコンペ。散策グループは、シャボテン公園へ、？万円もするシャボテンをもらって、えびす顔でした。（ゴルフコンペ№2五月中旬〝御殿場〟の予定です）

親睦伊東句会

三月十三日夜、宴席終りのころ突如「俳句を作ろうヤ」という動議出る。席順は「春の海」と「宴（うたげ）」で、メ切りと披講は翌朝のめしどときまる。

さてそれからジャン卓を囲む者、痛飲を重ねる者、外出して行方不明の者、早々にふとんにもぐり込む者などさまざまに深夜に及ぶ。勇敢なる一隊は、暁とともに船をチャーターして釣りに出かけるなど、結局朝めしはバラバラ。

こんな雰囲気の中でも、九人から四十余句が集まる。ベロベロに

飲むほどに話もはずんで

眼

……は消えて無くなる

私はこの頃、その日が来るのがそう遠いことではないと信ずるようになった。先頃、私は都内の大学病院で徹底的な人間ドックに入った。結果はまだ青年並みであると判って大いに安心したが、このドック入りの期間中、長期療養者を観察して大いに参考になった。

彼ら長期入院患者は只ひたすらにテレビを楽しんでいる。此処で知った事は、いまのテレビは主として、女子供と老人そして病人の相手をしているという事である。病院のテレビは有料であった。それは機械のリース代であるが、ふと、この時、私は将来テレビは各局全て有料になると予感したのである。家庭内のテレビも好みの番組に合わせてゼニを入れなければ映らないような仕掛けが必ず発明されるに違いない。現在あるようなコイン式のものでなく、画期的な発明がなされて、見たいチャンネルに合わせると、それが逆に電波で集計され、局から月末に集金が来るという発明だ。

現在、政治に規制されたり、資本に最大の発言権を許しているテレビ・ドラマ番組には余りにもつまらないものが多く、あれこれ注文の結果出来上った平均的無害番組が多く、毒にも薬にもならぬどころか、すべてに思考力を失わせ、馬鹿の一つ覚えを量産する程に有害なものさえあるようだ。

やがて新発明が完成すれば、下手な番組は集金ゼロという結果にもなって、怒ち翌月からその番組は姿を消す。有料であってこそ初めて天下に存在理由を主張できる立派な作品が生まれるに違いない。作家たちより局自身が、これは望んでいる事だろう。映画が有料であることによって衰弱し、その衰弱の中から、真に秀れた作品が生まれて来つつある現状を考えるならばテレビのドラマや連続映画番組は、いつの日か同じ試練を経なければ、やがて民衆から飽られ味噌汁の作り方のうまい作者が屁の足しにもならないホーム・ドラマとか称する八方美人番組を、相も変らず作り続け、少し骨のある男たちは、最早テレビのドラマなど観もしないし、作ろうともしなくなるであろう。

今日、小説も絵画も音楽も、すべて商業資本の支配から脱し切ることはむづかしい。それにしてもテレビは最もひどすぎる。むしろドラマ番組など一時期無くなった方がいいのではないか、とさえ思うこの頃である。

（松浦健郎）

ジャングル大帝

虫プロ製作の「ジャングル大帝」（脚本、放作組員辻真先氏同雪室俊一氏）がフジポニーからビデオテープに複製・頒布されていなかったので、放作組は去年四十六年から虫プロと交渉してたが、次のような内容で話し合がまとまり、昨年九月迄の使用が支払われた。

契約内容は定価の一％を五年を限度として、販売本数分を支うことにより、五十三年三月迄使用を認めるというもので、同期間終了後は放作組、同プロ、放送組員三者の協議となって

ムーミン

テレビ動画「ムーミン」（脚本、放作組員加藤有芳、鈴木良武、代準二、藤川桂介、吉田喜昭氏）のオリジナル脚本が、講発行の「楽しい幼稚園」「おだち」、エポック社、ファミ紙芝居に無断で使用されていにつき、放作組は昨年十月か

カラー録画
●心臓部にフェライトヘッドを採用。いちだんと

支部所在地
関西・大阪市西区うつぼ1—51 電通うつぼ別館 △441～6018
中部：春日井市神明町49—16 △31～3418
九州・福岡市住吉2—15—20 帯谷方
北海道・札幌市平岸木の花団地30—203近藤洋方△831～5783
中国・広島市上幟町8—33流川幼稚園内△21～5493

放送作家ニュース

発行
協同組合 日本放送作家組合
東京都港区六本木6—2—5ハラビル内
電話 404—6761（代）
発行人 大林 清
毎月1日発行
定価10円

第12回協会賞受賞者きまる

贈賞式・祝賀パーティは5月22日

CM作品賞は「がんばらなくっちゃ」

第十二回日本放送作家協会賞は協会員のアンケートにもとづき、各賞委員会が慎重に審査した結果昭和四十七年度第一回理事会にお

優秀番組賞
「日本史探訪」（NHK）
昆虫物語「みなしごハッチ」（竜の子プロ）

演出者賞
ラジオ部門
竹内日出男（NHK）
ラジオドラマ「涙鳴り」
テレビ部門
瀬木宏康（MBS）
テレビドラマ「女徳」

男性演技者賞
児玉 清
「花は花よ」「肝っ玉母さん」

女性演技者賞
小川真由美
「浮世絵女ねずみ小僧」「春の嵐」「愛と死の沙漠」

大衆芸能賞
演芸部門
笑福亭仁鶴
「ヤングおーおー」「お笑いネットワーク」
ショー部門
三波伸介
「笑点」の司会その他

CM作品賞
中外製薬株式会社
新グロモント「がんばらなくっちゃ」

特別賞
宮田 輝（NHK）
「ふるさとの歌まつり」「紅白歌合戦」等毎年の活躍に対して

児玉 清氏

小川真由美さん

優秀番組賞
「大望の世紀」（TBS）

演出者賞
玉井 和雄（QR）上原 次郎（CBC）以上ラジオ 小林 俊一（CXTV）岡崎栄（NHK）

悠木千帆

大衆芸能賞
大橋巨泉、小川宏、桂小金治
落合恵子、いかりや長介（以上ショー）岩井はんじ・けんじ、京極佳津照（以上演芸）

CM作品賞
桃屋、丸井

贈賞式は五月二十二日（月）午後五時半から、東京赤坂のホテル・ニュージャパンでおこなわれる。

総会提出書類を承認

放作協理事会から

日本放送作家協会の昭和四十七年度第一回理事会は四月十七日午後二時から六本木の事務局で開かれた。当日は、大林清、西沢実、高橋玄洋、内村直也、内山愛一郎、岡本克巳、米富洋一、田井洋子、寺島アキ子、西島大、久板栄二郎の各氏が出席。（委任十一氏）議題とその内容は次の通り。

第一号議案「総会準備に関する件」

西沢常務から昭和四十七年度事業計画書および昭和四十六年度事業報告書について報告が行なわれ承認された。

第二号議案「委員会報告」

協会賞贈賞に関して久板協会賞委員長から優秀番組賞部門について報告があり、その他各部門別に演出者賞（西沢常務）演技者賞（岡本委員長）大衆芸能賞（内山委員長）CM作品賞（米富委員長代理）特別賞（西沢常務）の選考経過報告が行なわれた。その結果、別掲のごとく各部門賞が決定された。

年鑑委員会の西島委員長から昨年度版の二倍に増ページされ総会までに発行されること、定価は八百円にしたいと報告があり、また発行日を今年度から早くすることが提案され、確認された。

つぎに、来宮広報委員長から協会賞パンフレットの編集の件について、選挙管理委員会について西沢常務から報告があり、それぞれ了承された。

第三号議案「協会事務局人事に関する件」

局員太田芳夫が三月二十日付で退職したので現在の職員は高橋より一名であるが、組合所属の新規採用の三名が適賞協会の仕事を行なうとの報告が西沢常務からあった。

第四号議案「三月決算報告」

高橋常務から、三月収支、四十六年度収支決算、四十七年度予算について説明があり、了承。

第五号議案「その他」

西沢常務から四月十八日、NHK記者クラブで協会賞の記者会見が行われること、五月二十二日総会の後、贈賞式が開かれるので多数参集されたいと要望があり閉会した。

眼

百里の道も一歩から

年金制度のことです。

われわれの組合にも、いよいよ「放送作家互助年金制度」といったようなものを発足させたいと思っています。以前にもいろいろ検討されその都度、難問に突き当って見送られてきましたが、こんどこそは万難を排しても、実現させたいと思っています。

「国だって満足なことが出来ないのに、身分・収入の不安定な文筆業の寄り集りに、年金制度の確立などという大それたことが出来るのか」そういってしまっては三もフタもありません。困難は承知の上です。やるのです。何もせずに悲観論を唱えていては、何事もはじまりません。たとえ月々三千円でもいいじゃないですか。それでも全く無いよりはましです。

それに、それくらいのことなら、特にそのために組合員から掛金を頂かなくても、今すぐには無理ですが、極めて近い将来（老齢者を対象に）支給することは不可能ではありません。事業収入による財源や剰余金を活用することによって、組合員に一銭の負担もかけず、出来る見込みがあるのです。

そのために事業委員会などは日夜、実に涙ぐましい努力をつづけています。一銭も自分の収入にならないことに仕事をなげうって走り回っているのです。

年金制度の最大の難問は、なかといっても掛金の問題です。それを一銭も払わず、いくばくかな年金を支給されるためには当然、陰で多くの奉仕と犠牲が伴います。それが今は極く限られた人たちにのみ課せられています。

それと、事業収入には、いうまでもなく波があります。不安定な財源にのみ依存していては内容のある年金制度が確立されません。そこで、賦課金（会費）を百円か二百円値上げしてその分を年金基金へ回わしてはという案もあるようです。

いづれにせよ、近く年金に関するアンケート用紙が皆さんのお手許に届きます。なんといっても、組合員各位の理解と協力とが大前提となります。一人一人が、自分の老後の生活安定のために、この際、真剣に考えてアンケートには必ず応えて頂きたいのです。

（岡田光治）

問題点をつめる

テレビ映画交渉

放作組は、演劇協会、シナリオ作組と共に、テレビ映画の放送著作権処理について映連と三年越の交渉を続けているが、ようやく大詰を迎え、去る三月二十四日付で三団体は映連に次のような文書を送付、映連の回答待ちである。趣旨は、

一、一時間最低十万円とし、再放送料前払い分として、三十割以上上のせをする。

二、局ランクに三十割以上、上のせをする。（シナリオ作組はこの項削除）

三、現在支払われている各人の脚本料を下まわることはない。

放作組の新年度第一回理事会は四月十日、六本木事務所で、大林寺島、岡本、内山、岡田、米富、田井、西島、布勢、松本、水原（書面出席五名）の十一名の出席で開かれた。以下は当日の議案と結果である。

第一号議案「総代会提出書類について の件」

（イ）昭和四十七年度事業計画案ならびに予算案についての件一部手直しを含みとして承認。

（ロ）昭和四十六年度事業報告ならびに決算報告についての件本部については承認。

（ハ）剰余金処分案についての件承認。

以上、五月の総代会に提出。

第二号議案「レコード協会との覚え書についての件」（別項）

第三号議案「映連との交渉について の件」（別項）

第四号議案「常務理事担当業務報告について の件」

寺島常務報告＝（1）衛星により送信される番組伝達信号の無断伝達を禁止する条約案」について文化庁から意見を求められたが、特に問題はないので、意見は述べなかった（2）NHKの実演に使用した演芸台本の使用料支払いについて（3）決裁規定の回覧（4）職員 枝純子が 四月二十日付で退職、代って明珍崇彦を三月二十七日付で採用。ほか七件（既報、別掲）

第五号議案「委員会報告について の件」

福利厚生委＝年金について、パンフレットを配布。なお、詳しく検討する。

事業委＝東武ファッションショーの決算、日本農業新聞に横光晃氏を斡旋、理研の「小学校理科一年」三十二本は録画を終り、あと十八本は四十七年度に制作予定。これも多分当組合で請負うことになろう。又、企画そのものを請負うような方法も考えて話し合いをしたいと申し入れ、渡辺本部長もそれに応じるということになっている。

オーディオ・テープ覚書

放作組・レコード協会

放作組はレコード協会とオーディオテープの製作に関し、次の覚書を取り交わすことを決めた。

協同組合日本放送作家組合（以下甲という）は、その組合員を代表し、社団法人日本レコード協会（以下乙という）は、その会員（以下製作者という）を代表し、製作者が製作する文芸著作物等のテープ化したもの（以下テープという）が全く新しい分野の商品であり、テープのレパートリーとして極めて不安定なものであることに鑑み左記の事項を確認する。

記

甲と乙とは本覚書調印後三か年を経過した後、製作者が甲の組合員に対し、その製作するテープに関し、脚本の執筆を委嘱する場合は、当該脚本の著作権処理の方法について協議を開始するものとする。

脚本家名の表示について

動画製作者連盟表明

放作組は二月二十九日付で、日本動画製作者連盟に対し、テレビ動画が放送または再放送される時タイトルに脚本家名の明示のない場合があるが、これは著作権法違反であるという申し入れ書を送付したが、三月八日付で回連盟から回答書が放作組に寄せられた。趣旨は、放作組の要望は加盟会社には通達したが、再放送の場合は当該局の都合で作家名がカットされることもあり得るので、その場合は関係局に申し入れたいというものである。

値上げ交渉は局毎に

放作組関西支部は、民放出資料懇談会（朝日放送等八局）で独自に脚本料値上げ交渉を行なう。

翻訳脚本を買

外国テレビ映画の日本語版で買取りになっていない放作組は民放連に登録、その放使用料につき交渉を続けて昨年十月十九日、民放連は肉には処理できないので、ケースの中で解決して欲し

放送作家ニュース

昭和46年5月1日　第93号

放送作家ニュース

支部所在地
関西・大阪市西区うつぼ1—51 電通うつぼ別館 △441～6018
中部・名古屋市中村区鳥居通5—48 中条雅二方△471～5651
九州・福岡市麦野西町419△58～4321
北海道・札幌市平岸木の花団地30—203近藤洋方△83～5783
中国・広島市上幟町8—33流川幼稚園内

発行
協同組合　日本放送作家組合
東京都港区六本木6—2—5ハラビル内
発行人　大林　隆
毎月1日発行
定価10円

第11回協会賞受賞者きまる

贈賞式・祝賀パーティは5月20日

第十一回日本放送作家協会賞は過去一年、四回にわたる協会員のアンケートにもとずき、各賞委員会が慎重に審査の結果、別掲の通り決った。なお、授賞以外に最終審査まで有力候補として残ったものは次の通りである。

優秀番組賞
「日本史探訪」
「永六輔の遠くへ行きたい」

堺正章氏

十朱幸代さん

優秀番組賞
「人間のうたシリーズ」（木下恵介プロダクション）
「Uボートの遺書」（NHK）
演出者賞
テレビ部門
末盛憲彦
「ステージ101」（NHK）
ラジオ部門
鈴木久尊
「ジャンボ・アフリカ」（文化放送）
男性演技者賞
堺正章
「時間ですよ」（TBS）
「こけこっこー」（TBS）
女性演技者賞
十朱幸代
「人喰い（火曜日の女）」（NTV）
「泣虫小僧」（NTV）
「0の焦点」（NHK）
大衆芸能賞
演芸部門
東京落語会（NHK）
ショー部門
桂歌五郎
「オールナイト・ニッポン」（ニッポン放送）
CM作品賞
ハウス食品工業株式会社
「ハウス・ジャワカレー」

「人間のうたシリーズ」ほかに

演出者賞（NHK）
男性演技者賞
児玉清、藤村俊二
女性演技者賞
丘みつ子
大衆芸能賞・演芸部門
かしまし娘、金原亭馬生
大衆芸能賞・ショー部門
佐良直美、三波伸介
CM作品賞
キリンビール、資生堂

贈賞式は、来たる五月二十日（木）午后五時半から、東京赤坂のホテル・ニュージャパンでおこなわれる。

内山理事に叙勲内定

放作協理事会から

日本放送作家協会の第一回理事会は四月十三日午後二時から六本木の「ハラビル」事務局で開かれた。

当日の出席理事は、大林清、西沢実、高橋玄洋、伊馬春部、内山惣十郎、来宮澤一、岡本克巳、寺島アキ子、山下与志一、久板栄二郎の各氏。

○総会ならびに協会賞授賞式に関する件
西沢常務から昭和四十五年度事業報告が行なわれた。
協会賞授賞に関して、優秀番組賞部門（久板委員長）演出者賞部門（伊馬委員長）演技者賞部門（岡本委員長）大衆芸能賞部門（内山委員長）CM作品賞部門（来宮委員長代理）の各部門委員長から選考経過報告が行なわれた。その結果、別掲のごとく各部門賞が決定した。

○委員会報告の件
来宮広報委員長から協会賞パンフレットのデザイン変更の申し入れがあり、これを了承。

○叙勲の件
かねて申請中の内山理事に、叙勲内定の報があったことが報告された。

○三月分決算報告の件
高橋常務から説明があり、了承

○その他
久保田万太郎賞委員会については、演劇協会との話し合いを今後も検討することにした。
協会入会者四名、退会者五名が報告された。また、組合で実施しようとしている会費滞納者除名に

眼

作・脚本・脚色

「原作のある物を脚本にする作業さ」
「原作のない物を脚本にする場合は？」
「そりゃ脚色じゃないさ。オリジナルの場合は、タイトルだって作とか脚本とか……もっとも脚色の場合も脚本と出るけど」
「でも新聞見たらいの名前は脚色って出てた」
「原作がないのにか？」
「脚色って仕事、時々くるだろ」
「ああ、くる」
「あれ、何だい」
「いや、原作者の名前も出てた」
「じゃ原作があるんじゃないか」
「でも原作はないんだよ。あったけど、全然使わなかった」
「何故使わなかったんだ」
「つまらないから」
「変な話だな」
「うん、だから引受ける時、こんなくだらん原作じゃ、書く自信ないっていったんだ。そしたらプロデューサーがいったよ。いやこの原作はぶちこわして下さい。無視しちゃって下さい。あなたのオリジナルで書いて下さい。それを期待してるって」
「ぶちこわしたのか」
「無視した。オリジナルで書いた。でも新聞には脚色って…」
「おかしいな。無視しなきゃならない原作をどうしてとり上げたんだい」
「プロデューサーが原作料払っちゃったからだって」
「おかしいな。でもそんな失礼なことしてよく原作者が怒らなかったな」
「大丈夫さ。どう料理して下さっても結構。どうぞ自由にって原作者は云ったそうだ」
「料理？　料理と無視は違うよいまにどなり込んでくるぞ。原作の名誉にかけて」
「大丈夫さ。いままで何回もやったもの。いつも平気だった。それ所か、原作を見たこともなくて脚色する場合もよくあるんだ。でも原作者は怒らないよいつも」
「変な人だな」
「ね？」
「君がだよ。そんな仕事をするばかりか、それをこんな所にシャーシャーと書くなんて。一体君たちナニ人？　ああ——ナニマルさんか、道理で……」
（西条）

四十六年度予算案決まる

放作組理事会から

放作組新年度第一回理事会は、四月二日、六本木の事務局で、寺島、岡本、内山、江上、西島、山下の六氏（出席十二氏）が出席して開かれた。その議案と結果は次の通り。

第一号議案「民放連との契約交渉についての件」（別掲）
第二号議案「昭和四十六年度事業計画および収支予算案について の件」
事務局原案を一部修正の上承認
第三号議案「賦課金未納者について の件」
規約によれば一年以上財課金（組合費）を滞納している者は除名対象になるが、三月末日現在の対象者八十七名につき検討の結果前年度も対象になって在会意志を表明した者でその後も未納になっている者（即ち三年以上滞納者）二十一名に対しては、除名処分をおこないたく、本人に通告することとした。（正式には総代会で決議となる）。
第四号議案「委員会報告について の件」
著作権委＝三件（別掲）
紛争処理委＝一件（別掲）
斡旋委＝東芝モニター四月は大林、大坂、寺島、早坂暁、水原の五氏に依頼。
福利厚生委＝文芸美術国民健保組合の監事に寺島氏を推薦。
事業委＝協賛費の見返りとして企画会議を毎月おこなうことになるが、その出席旅費は一人一回一、二一一円とする。又東武百貨店のファッションショー（三月二十七日）の企画構成をおこなった。
国際委＝IWGの代表者会議は六月にカナダで開かれる予定であったが、カナダの内部事情で取止めとなり、他国で開催する予定となった（詳細未定。）
組織委＝シナリオ作組との合同会議報告（別掲）。又、その問題について組合員の意見を聞くため、経過説明をかねてアンケートを実施する。その文案承認。
融資委＝回収状況報告。
教育事業委＝第二十二期CM教室の募集をおこない、九十名の応募があった。第二十期放送作家教室と第六期研修料は四月三日まで募集中であるが、応募状況は良好である。
監視業務＝三月は十六件一、五五五、四九〇円であった。
第五号議案「加入・脱退申込者審査の件」
馬島満（理事会勧誘）おうちやすゆき（推薦伊馬、阪田寛夫）こわせ・たまみ（伊馬、阪田）堀内湘汀（伊馬、関）の四氏の加入申込みを承認。
第六号議案「二月期収支報告について の件」（承認）
第七号議案「その他の件」
総代改選＝各地域毎に改選をおこなうことになるが、関東東北地域は四月一日に立候補を締切った。また郵便配送中のものもあると思われるので、三人超過し、選挙になるであろう。
理事長代行＝大林理事長が四月三日から一週間訪韓する間、寺島常務が執務代行する。
事業報告と決算報告が未完なので、四月十三日に臨時理事会を開催する。

× × ×

放作組第二回理事会は四月十三日、六本木の事務局で大林、寺島、高橋、布勢、山下の五氏（書面十氏）が出席して開かれた。
第一号議案「四十五年度事業報告および決算書承認の件」
教室事業を「社団法人」から譲渡されたのに対し、教室運営権を支払い、共通経費もできるだけ組合の負担とし、使用度の多い備品も協会から購入した結果、本部のみの収益としては約十万円となった。またこれに関して金銭的には未払いの負債が増加した。以上の説明の上、承認した。
第二号議案「四十六年度予算案修正承認の件」
前号決算に関連して、前回理事会で承認された予算案を修正したいと提案があり、借室料の協会との分担率を一対四から二対三にし業務協力費の五〇%を比率ではなく定額二万円に変更することとなった。又、会議出席旅費は前回都外を六百円と考えていたが、これも一般五百円とし、都外は国鉄普通料金の実費付加支給することになった。又、賦課金も、四二五円に値上げと考えていたが、これも二百五十円の据置きとし、このうち百五十円を団体保険料の方に充当死亡保険金は十五万円とする。以上変更案を承認。
なお、前回理事会で討議決定した二年以上の賦課金未納者除名に関して、支部の未収金も多いが、税法上は未収金も収益に計上、税金も約三三%支払うことになるので、支部も二年以上の組合員は整理して貰うよう通知することにした。
第三号議案「その他の件」
五件（別掲）

「協会」ならびに「組合」大会日程

五月二十日（木）
午後一時　協会通常総会
午後三時　組合東北関東地区大会
午後五時半　協会賞贈賞式およびパーティー
ホテルニュージャパン

以上六本木事務所

五月二十一日（金）

経済的にも対等

日本映画放送作家組合推進協議会

日本映画放送作家組合推進協議会の第八回会合は、三月二十二日六本木の放作組事務局会議室で開かれ、放作組側から布勢、西島、水原の三氏と寺島常務、シナリオ作組側から著俣、笠原、国弘、千葉中西、渡辺の六氏が出席した。
まず前回検討された組織に関して、縦の部会と横の委員会の関係がわずらわしい、もっと簡単でよいのではないか。劇映画、TV映画、放送の三部会があれば充分だと思うという意見が笠原氏から出され、討議の結果、組織委員会、著作権委員会の中に各部門を集合させればよいのではないかということになり、規約もその線に添って変えることにした。
財政面については、手数料収入の減算などで、どうしても赤字が

カラー録画

支部所在地
関西・大阪市西区うつぼ1—51 電通うつぼ別館 △441〜6018
中部・名古屋市中村区鳥居通5—48 中条雅二方471—5651
九州・福岡市姪野西町419△58〜4321
北海道・札幌市平岸木の花団地30—203近藤洋方△83〜5783
中国・広島市鉄砲町10—2 流川幼稚園内△21〜5493

放送作家ニュース

発行
協同組合　日本放送作家組合
東京都中央区銀座7—4—17
銀座電通ビル内
発行人　大林　清
毎月1日発行
定価10円

第10回協会賞贈賞式挙行

—華やかなファンファーレと共に—

演技者賞に森光子さんら

参会者二百六十名で盛大に祝賀会

日本放送作家協会賞の贈賞式と祝賀パーティは、五月十日午後五時半から、銀座電通ビル八階ホールで各界から二百五十名の参会者を迎えて華やかにおこなわれた。伊馬春部理事長の挨拶と久板栄二郎選考委員長の選考経過報告のあと、狩場氏の司会で受賞者が次々と壇上にあがり、伊馬理事長から賞状とブロンズ受けとった。

贈賞はまず演出者賞を受けた東海ラジオ放送の柳下英彦氏からはじまり、受賞者は賞状とブロンズを手にして、参会者にそれぞれ喜びの言葉をのべて、参会者の盛大な拍手を受けた。受賞者挨拶の要旨は次のとおりである。

柳下英彦氏　身にあまる賞をいただいて感激しています。ラジオドラマについてはまだまだ未熟だと思っていますが、昨年の「天山北路」の場合は、シルクロードに出かけてモスクワ放送にも協力してもらって、現地取材をやれたということ、それに井上靖先生をはじめ脚本の阪田先生やそのほか、私の生涯を通じてこれほど多くの人の協力を得て仕事ができたことはありませんでした。今回の賞はいろいろの意味で、その総合的な努力に対していただけたのだと思います。これを機にがんばります。

挨拶する伊馬理事長

金田竜之介氏　新橋の演舞場で芝居を見ていたときに受賞の知らせをうけました。自分では昨年は受賞対象になるような作品の心当たりがなかったので、はてなと思ったのですが、「極楽夫婦」などの芸道物でいただいたのだとわかりました。今からもう十余年前に東京に出てきて新派に入ったころは、誰れも知っている人がなくて

けり出さざるを得ないだろう。又頼まなくたって、テレビ版には太い活字で作家名が載るだろうスタア作家が増えて、経済的に恵まれたら、放送作家協会がスポンサーになって、ゴールデンの枠を買えばよい。ドラマがだんだん減ってゆくなんて泣きごとは云わずにすむだろう。勿論、その場合の挿入コマーシャルは、作家自身のPRフィルムだ。夢だって、大きいことはいいことだ。一度、みんなでチエをしぼる機会が欲しい。

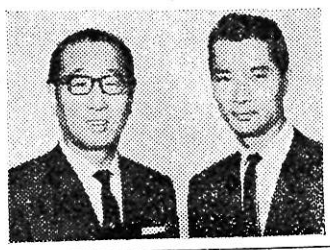
（来）

高橋幸治氏　私のような未熟もの、のどん平あたりで、ああ賞がほしいと酒飲んでいたのですが、それが一昨年でしたが「流れ星」をやって、それに全力を尽したと思ったところから、なんというか、たんたんとした気持で、もう賞などに執着がなくなりました。これからさきは与えられた仕事を、すべて全力投球でやるだけだと思うようになりました。それが今日賞をいただくというようなことになりまして、受付で胸に花をつけていただいたとき、はじめて受賞するんだなという実感がわいたようなわけです。どうもありがとうございました。

森　光子氏　先ほど金田さんがもう賞には執着がないとおっしゃいましたが、私のほうは若いせいか、まだたくさん執着がございます。今日ちょうどいま、「時間ですよ」の本番をやっておりましてのが、このような立派な賞をいただいていいのかどうかわかりませんが、いただいたからには、それにふさわしい俳優になるよう努力したいと思います。どうもありがとうございました。

ゆかたにエプロンというこんな姿でやってまいりましたが、スタジオの人たちがみんな自分のことのように喜んでくれまして、送り出してくださいました。私はみなさんのかわりに、いうなれば卒業生代表みたいな形でこの賞をいただくんだと思っております。スタジオドラマのいいものがだんだん減って悲しいことだと思いますけれど、今日おいでくださった皆様にもご協力をお願いして、スタジオドラマのいいものがどんどん増えますように、どうぞよろしくお願いいたします。

コロンビア・トップ、ライト両氏　最初通知をいただいたとき、この賞を受けてくれるか、どうかというおたずねをいただきました。たぶんあの二人はへそまがりだから、いらないなどというのではないかと思ったんでしょう。とんでもない、わたしたちは、それほどへそまがりではありません。それが権力の息でもかかっているというようなものなら、おいそれともらうわけにはゆきません。しかし、仕事の上でもお仲間である放送作家の先生方が私どもを選んでくださったのに、おことわりする理由がございません。喜んでいただきます。ありがとうございました。賞をいただいたからといって私どもは明日からなにも変るわけではありません。今までどうり、後をふりかえり前をみつめ、毎日一歩一歩あるいてゆきたいと思います。



西条凡児氏　後から出ると損です。先のかたがみんなええことをいってしまうので、わたしのいうことがありません。四年ぶりで東京へ出てきたので、うろうろしてしまいました。あんまり出てもこないのに、私のようなものを選んでくださって、ほんとにありがとうございました。これをはげみにという年でもありませんので、死出のみやげにとでもいいますか、命のある限り続けさせていただきます。おおきにありがとうございました。

カルピス寄務　三島克騰氏　権威ある賞をいただいて身にあまる光栄です。カルピス食品にいただきましたが、少い広告部員と、協力してくれた電通はじめいくつかの制作会社の人たちの努力のおかげだと思っています。私ともとしては従来どおり、これからも純良な、さらによい商品を作り、子どもさんからお年寄にまで親しんでいただけるよう努力したいと思います。ありがとうございました。

NET牛山剛氏　ご存知のようにこの番組は、鑓敏郎氏をはじめ優秀なスタッフのよたの総合的な力で作られています。私とも制作側といたしましては、これからも、これを機会に、このすぐれたスタッフの人たちの能力をフルに発揮できるよう場を作るよう心がけて、一層よい番組をつくろうと思っています。ご支援くださるようお願いいたします。

NHK広江均氏　大変ドラマ化しにくい作品だと思ったのですが、脚本の高橋さんが、とてもテレビ的な台本を書いて下さったおかげや、それに演出の和田勉やほかの人たち、スタッフ全員が一丸となって作った番組だったと思います。9時ドラマというのはいろいろなものを出していまして、この「朱鷺の墓」は劇速球でしたが今やっている「乱線模様」は、いうなれば変化球だと思います。いろいろやっている中で変化球は変化球なりに質のいいドラマを作ってゆきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

受賞者の挨拶が終ったあと、来賓の祝辞があり、NHK会長前田義徳氏代理として放送総局副総局長の坂本朝一氏と民放連会長今道潤三氏代理として民放連事務局次長の大野増造氏が、協会と受賞者にお祝いを述べた。

最後に再び受賞者全員が壇上にあがり、協会と関係者からの花束を受けとって贈賞式を終った。

このあと、放送作家組合の理事長大林清氏の音頭で、参会者全員で乾杯、なごやかなふんいきのうちに祝賀パーティがはじまった。

祝いかけつけた友人知人たちにかこまれて、日頃忙しい受賞者たちもこのひとときだけはくつろいだ感じで談笑していた。

贈賞理由

昭和四十四年度中の放送界各分野で活躍した人たちに贈られる第十回日本放送作家協会賞が、四月二十一日、次のようにきまり発表された。

優秀番組賞　「題名のない音楽会」＝NETテレビ（音楽の各領域にわたり、その愉しさの啓蒙に努めた斬新な企画構成に対して）

優秀番組賞　「朱鷺の墓」＝NHKテレビ（沈潜気味なスタジオドラマに格調の高い画面をつくり上げた成果に対して）

演出者賞　柳下英彦＝東海ラジオ放送（「天山北路」の演出に際して、ラジオドラマにおける無限のドラマのいろいろ）

女性演技者賞　森光子（TBS「天国の父ちゃんこんにちわ」、「時間ですよ」、NET「不貞ということ」その他、数多い出演作品を通しての円熟した演技に対して）

男性演技者賞　高橋幸治（フジTV「吉田松陰」、NHK「天と地と」、「朱鷺の墓」その他を通して着実に築き上げた演技に対して）

男性演技者賞　金田竜之介（NHK「極楽夫婦」などの芸道物をはじめ、各分野にわたり、その真摯な演技に対して）

大衆芸能賞〈演芸部門〉　コロムビア・トップ（NTV「世界の大学」その他、東京の漫才界の進歩への貢献に対して）

大衆芸能賞〈ショー部門〉　西条凡児（ABC「おやじバンザイ」における人間味ゆたかな、しかも常に節度を失わぬ司会語術に対して）

CM作品賞　カルピス食品工業株式会社（子どもを素材に、一貫して叙情的な画面を美しくうたい上げた作品に対して）

受賞者には、五月十二日の贈賞式の際し賞状とブロンズ（柳原吉蓮氏制作）が放送作家協会から贈られる。

和書・洋書・出版・文具・事務機・画廊・ホール
紀伊國屋書店

お砂糖は

放送作家ニュース

発行編集人□上野一雄
発行所□
東京都中央区銀座西8-10
電通西別館第4号
日本放送作家協会
571－0278・0882

© 1962 TRG 第19号 昭和37年3月25日

協会賞ブロンズ像

この像は、柳原吉達先生造型による「明日への希望」を表わしたものであります。左手に持つ〝ふたば〟は出発点の意。

この賞を得て、改めてこれを起点として、精進していただきたいという願いをこめて、造られたものであります。

製作・高原美術鋳造。
様式・約三十センチ。ブロンズ像。

受賞者きまる

企画賞に〝兼高かおる世界の旅〟など

七部門九者

昭和三十七年度「第二回日本放送作家協会賞」の受賞者を決める第四回理事会は、さる十九日三時より、民放連第三会議室に於いて開かれ、協会賞特別委員会提出の「受賞者選考案」につき検討の結果、これを満場一致で承認、ここに七部門（内二部門は二者）九者の受賞が決定した。尚授賞式は四月三十日、第一ホテルに於いて行われる。

昨年第一回制定の折、画期的な賞として広く各界から注目を集めた協会賞はいよ〳〵その第二回を迎えて、益々権威ある賞とするため、昨年末以来、協会賞特別委の設置、会員の二回にわたる投票の実施など万全の準備を進めて来た。

そして第三回特別委（三月十二日レンガ亭）に於ける受賞者選考案が、さきの第四回理事会に提出された。

理事会では、特別委の報告を検討しその結果、満場一致で承認。昭和三十七年度第二回協会賞受賞者は、ここに正式に決定した。

授賞式（及びパーティ）
期日 四月三十日（月）
会場 第一ホテル・新館

受賞される方がた

企画賞
「兼高かおる世界の旅」
演出者賞
山田智也氏（テレビ）
大坪都築氏（ラジオ）
男性演技者賞
ハナ肇とクレージーキャッツ
女性演技者賞
池内淳子さん
スポンサー賞
株式会社資生堂（テレビ）
エスビー食品株式会社（ラジオ）
TRG賞
「娘と私」
サンキユウ賞
東京新聞「ラジオテレビ欄」

受賞者の横顔

企画賞　兼高かおる世界の旅

企画制作　TBSテレビ編成局
協　賛　パンアメリカン航空

昭和三十四年十二月「兼高かおる世界とび歩き」でスタート。三十五年十月「……世界の旅」となる。提供は三井連合（三井系八社）。現在までの取材国数は七十五カ国。

演出者賞　山田智也

朝日放送演出部、チーフディレクター

大正十五年五月生。大分県出身。財団法人日本映画学校卒。昭二六、一一ABC入社。主要作品には「雨」「執行前三〇分」「釜ケ崎」芸術祭奨励賞受賞。現在「近鉄金曜劇場」などを演出

演出者賞　大坪都築

文化放送芸能部副参事（ディレクター）

大正十四年二月生。福岡県出身。日大経済学部卒。RKB毎日を経て、昭和三十一年文化放送入社。

主要作品には「棒になった男」（三二年度芸術祭奨励賞受賞）。現在「現代劇場」「名作シリーズ」など担当。

男性演技者賞　ハナ肇とクレージーキャッツ

ハナ肇、植木等、谷啓、安田信、犬塚弘、桜井センリ、石橋暎太郎の七氏

チームワークとそのセンスの良さで人気を博しているコミカルなグループ「おとなの漫画」「しやぼん玉ホリデイ」「歌まねXさん」などに出演。

女性演技者賞　池内淳子

本名中沢純子。東京映画所属。昭和八年十一月生。東京都出身。十文字高校卒。元新東宝女優。昭和二十七年度ミス日本。「雪国」「顔」など出演。テレビ・ラジオに出演して好評を博す。

通常総会、四月三十日に

全会員の出席を

昭和三十七年度定時総会は、四月三十日(月)、第一ホテル新館に於いて開かれることとなつた。

これは社団法人設立のお祝いと協会賞式典の前に行われる。

栄ある社団法人としての三十七年度事業計画案を中心とした総会となることが予想される。又、この他、三十六年度事業報告、収支予算、決算財産目録などの承認を受けることになつている。社団法人となつて第一回目の総会となる模様で、そうした輝しい出発点の意義もあり、会員全員の出席を期待したい。

スポンサー賞
株式会社資生堂
社長　伊藤隆男氏

「光子の窓」以来、テレビミユウジカルに意欲的で、その発展に寄与した現在、「あなたとよしえ」「東は東」、ラジオでは「ごきげんいかが」。

スポンサー賞
エスビー食品株式会社
社長　山崎峰次郎氏

連続ラジオドラマを長期間にわたつて提供。主な作品は「飢える魂」「日々の背信」「氾濫」「顔」「愛情の系譜」など。制作は文化放送など。

TRG賞　娘と私
NHK・テレビ

昭和三十六年四月スタートの連続テレビ小説。作獅子文六、脚色山下与志一、演出丹羽一雄・田中昭男氏。テレビ小説というジヤンルを確立した。

サンキユウ賞　東京新聞
ラジオ・テレビ欄
文化部長　宮川謙一氏

昭和三十一年九月十六日、ラジオ・テレビ欄を設け、現在に至る。担当編集者十三名（デスク中川鋭之助氏）

昨年度（昭和36年）受賞者

企画賞　日本の素顔（NHK）
演出者賞　せんぼんよしこさん
男性演技者賞　松村達雄氏
女性演技者賞　黒柳徹子さん
スポンサー賞　東京芝浦電気、東芝商事。
TRG賞　和田勉氏
サンキユー賞　(1)文化放送受付のみなさん
同　(2)館野淑子さん（TBS受付）

NEWS 各駅停車 NEWS

西島大氏　華燭の典

バンザイを叫ぶ祝客

西島大氏の結婚被露宴は3月2日、工業クラブに於いて催され、放送界を初め、新劇、映画界からも多数参会して盛大な宴となつた。出先から馳けつける友人などのにぎやかな歓声は、西島氏のお人柄をしのばせた。バンザイ

三木鮎郎氏　帰国

おみやげはなに……

三木鮎郎氏は、フジテレビ「スター千一夜」取材の為、約一カ月半にわたりハリウツドなどを訪れていたが、三月十一日帰国した。諸外国の放送界、映画界に深い興味と感心を持つ氏のことではあり、この渡米のお土産について、広く各界から期待が集つている。

佐々木恵美子さん出版記念会

明るく朗らかに挨拶

佐々木恵美子さんの「明朗ラジオドラマ集」出版記念会が三月八日夜、第一ホテルで開かれた。会場には、久保田会長、東京放送鹿倉社長、淡島千景さんら各界の知名人多数が出席、佐々木さんは頬を赤く染めながら「たくさんの方々に来て頂いて、こんなうれしいことはありません」と感激していた

菅野民放連事務局次長

アメリカ民放界視察の旅へ

日本民間放送連盟・事務局次長菅野達雄氏は、三月二十六日空路渡米する約一カ月にわたつて、アメリカの民放界をみて歩くことになつている。

TTC卒業公演

檜舞台への第一歩を踏む

テレビタレント教室・第三期生の卒業公演は二十六日、有楽町ヴイデオホールに於いて華やかに開かれた。放作協のほか、各賛助団体からの花束や多数の祝客が、熱演の舞台にいつそうの色どりをそえた。

※　会員に関する〝こんなこと、あんなこと〟といつた事柄がございましたら、お知らせ下さいませ。

第一回放送作家協会賞贈呈さる

―贈呈式につゞいて、パーティー開催

放送作家が日頃の職場で接する人々に、感謝の気持と、年間の優秀な方々への記念とを含めて〝日本放送作家協会賞〟の設定をきめ、会員の投票選出により贈呈の対象をきめ、五月十一日午後六時より、贈呈式を挙行した。

この日は、協会の第三回定時総会でもあり、サンケイ会館で開催されたが贈呈式は、同会館五階で行われた。

この〝協会賞〟の第一回は①企画部門【日本の素顔―NHK―スタッフ】②演出者部門【せんぼんよしこさん】③男性演技者部門【松村達雄さん】④女性演技者部門【黒柳徹子さん】⑤スポンサー部門【東京芝浦電気・東芝商事】⑥TRG賞【和田勉さん】⑦サンキュー賞【(1)文化放送受付のみなさん(2)舘野淑子さん】の七部門に対してであり、特別にデザインを委嘱し作製された、ブロンズ製の女人立像が与えられたもの。

式は、五時半に、内村理事長よりのあいさつがあつて始められ、前田武彦氏のホストにより進められた。贈呈の順序として、まず理事長より賞状が読み上げられたあと、協会側の会員より各授賞者に対し、ブロンズの像が与えられたが、女性授賞者に対しては、男性会員より、男性授賞者に対しては女性会員より、という風な配慮があり、それ〴〵授賞者と関連のある番組テーマ音楽やCMソングなどがバックに流れるといつた趣向で行われた。

最初に、演出者賞のせんぼんさんが愛の劇場のテーマ音楽で壇上に登り、内村理事長より賞状が授与され、次いで飯島正氏より像が贈られて「これからも立派な番組として益々努力していたゞきたい」と祝辞が呈されて、贈呈式は始められた。続いて企画賞のNHK社会教育部川原部長及びスタッフには田井洋子さんより、サンキュー賞の舘野さんには斎藤豊吉氏より、スポンサー賞の東芝専務平賀氏には佐々木恵美子さんより、とそれ〴〵贈られたが女性演技者賞の黒柳徹子さんは、渡米中のため劇団マネージャーに伊馬春部氏から贈られ、黒柳さんの声が録音により会場に伝えられた。引き続き、男性演技者賞の松村さんには石島菊技さんから、サンキュー賞の文化放送の受付係のみなさんには玉川一郎氏から一人一人に対し、副賞もともに贈られ、最後のTRG賞の和田氏には、寺島アキ子さんから与えられて、無事に贈呈式を終了した。

席上、受賞者のことばではサンキュー賞の舘野さんは、感激のためことばとならなかつたほどの劇的なシーンがあつたり、松村氏は「今迄一緒に苦労してくれた女房も大変喜んでくれると思います」と例の如き調子で淡々と述べて、会場を笑わすなどがあつて、最後の和田氏は、「このような賞は作家の団体として変つた心理を突いたものだと思います。たゞ、授賞と同時に感想を述べろといわれても他に云いようがないので、オツカレサマデシタと云うより他に仕方がない。これからも、従来のようなドラマをどん〴〵出したいと思う」とその抱負を述べたりした。

式のあとは、パーティに移り、それぞれ交歓が行われて、盛会裡に八時すぎ終了となつた。

(写真は当日の贈呈式の模様)

総会議事・パーティー進行など検討

定時総会に先立ち第二回理事会開催

昭和三十六年度第二回理事会は、五月十一日に、定時総会に先立ち、サンケイ会館内にて三時より開いた。この日は定時総会開催に関する議事進行と協会賞贈呈式についての件が、審議承認された。

当日の出席者は、内村、伊馬、上野永、キノ、佐々木、しのざき、田井、玉川、南江、名和、堀江、北条、三木若尾の十五理事に加えて、委任状提出者八名になる二十三名出席で、比率六・三八%で成立した。

定時総会議事進行について……(理事長提出)この理事会終了後、続いて行われる昭和三十六年度定時総会の進行についての案が提出された。

議事次第は、(1)開会の辞(堀江)、(2)議長選出(南江)、(3)成立報告(南江)、(4)会長挨拶(久保田会長入院のため、容態説明)、(5)理事長挨拶(内村)、(6)提出書類の説明及び承認、(7)役員増員について(堀江)、(8)法人格申請について(内村)、(9)支部報告(牧野・帯谷)、(10)質疑受理・(11)閉会の辞(堀江)と決められ、それぞれの担当についての確認が行われた。

社団法人格申請について……(理事長提出)当協会も発足以来一年有余を経た現在、当初より計画されていた〝社団法人〟格取得についてその利害得失についての検討が行われ、それぞれの面について討議された。その結果、専門的な問題に関しては、顧門の小檜山氏に一任することに決められた。

予算修正に関して……(財務委提出)総会席上にて、出席者に配布される〝昭和三十六年予算書〟は、協会の現状を考慮すると、事業の拡大や新事業の発足などが考えられるので、修正・追加がなされることは必至であり、その点の承認を受けたい旨、提案され、承認された。

贈呈式の進行について……(永理事提出)総会終了後引続いて、五時より、サンケイ会舘五階で行われる〝第一回日本放送作家協会賞贈呈式〟の、式次第及びパーティー進行について説明された。

進行及び式次第順序は、(1)五時より受付開始、(2)五時三十分迄談話室、(3)六時より贈呈式挙行、(4)式後ビアーパーティー、となつており、運営に関しては、責任(大倉)、ホスト(前田)受付(永、立美、神吉)、飲食(宮田)、談話室(寺島)など各部署の分担について説明され確認された。

◇支部だより◇

制作局への要請を検討

―関西支部定例幹事会で話し合う

関西支部では、四月の定例幹事会は二十三日、電通会議室で開いた。当日の出席は、長沖、香住、藤本、鵜田、茂木、木村、村上の六氏であり、次の各事項について話し合われた。

▽**稿料値上げについて**……各局よりの回答がないので、その間の事情聴取のため、個別訪問をすることに決め、五月一日に、二班に分れて行うことゝし、その構成メンバーとして、一班＝長沖、香住、土井(読売テレビ・関西テレビ)。二班＝茂木、鵜田、藤本(朝日放送・毎日放送)がその任に当ることゝなつた。

▽**製作局への要請事項**……(1)連続もの台本執筆は今後週一本に限定して欲しい。現行の如くトリダメのため週二本以上書かされることは、酷使するもはなはだしい。特にタレントの都合により作家にのみ皺寄せすることのない方法を講じて欲しい。(2)テレビタイトルの場合原作者名は重視する傾向があるが、脚色者名をも重視する方法を採つて欲しい。これは、前述の要請事項と同様に、放送作家を軽視しているかの観があり、この意識を改めて欲しい。

▽**放送記者会との連絡会**……関西地方放送記者会との話し合いを行い、協会の拡報及び支部運営の円滑を計るためにも、連絡会をもつことを決め、五月定例幹事会後に開くことを予定した。

▽**支部発行の雑誌を計画**……支部報の充実をはかり、各制作局に送付して、制作局の各部署に協会の存在を知悉してもらうよう努める。その他、部報とは別に「雑誌」を発行したい旨の意見が出され、茂木、藤本の両氏に企画検討を委嘱した。これは会員相互の連絡を計り緊密感を増すと共に、対外的なPRを含めたものとして企画されるものである。

内村理事長関西支部へ

五月八日、内村直也理事長は大阪で長沖一支部長他幹事会の人達と関西支部の問題につき意見を交換した。

内村氏は、本部は何処からも寄附は受けていない事など支部に於ける誤解をとくと共に、主に財政面に就き本部の考え方を説明し、今後の関西支部のあり方に就いて協議したが、関西支部もそれに基き研究する事になつた。

新年度事業の企画を話し合う

―第一回事業委員会開かる

事業委員会では、昭和三十六年度に入つて第一回の委員会を、五月二十日三時より開いた。この日は、新年度に於ける事業の計画について話し合いが行われ、出席は、内村、堀江、並河、高橋、田井、山下、伊藤、岡田、依田の九委員であり、主として、CM教室及び放送文芸研究室の今後の計画について提案され検討された。その他、企画委員室から、TBS・東芝などに提示している企画シノプシスの処理問題について、提案があり各種審議が行われた。又新しい企画の提唱や立案が行われて、それぞれ今後の事業企画にゆだねられること、なつた。

会員消息

名簿作製後の移動

敬称略・到着順

〈新入会員〉

▽楠田芳子＝大田区田園調布五―四二(電七二一―六四一七)

▽沢野久雄＝目黒区下目黒三―四九七(電七一二―九二九一)

▽淀橋太郎＝台東区中根岸町九九(電八四一―一四一五)

▽羽仁　進＝練馬区中村町南三―二二(電九九一―九八六九)

〈名簿訂正〉

▽37頁10行目の東郷静男氏の住所で〝アパート一五三二号田中方〟はトル。

▽42頁1行目の三木鮎郎氏のTELは九六八八、その下の三木鶏郎氏のTELは九六八八はトル。

▽37頁トの部三行目藤善兵氏は、善平氏の誤り。

▼訃報＝関西支部会員秋村正治氏は五月七日午前九時頃大阪市住吉区の自宅で不慮の出来事で死去されました

放送作家ニュース　昭和42年7月5日

支部所在地
関西・大阪市西区うつぼ1～51 電通うつぼ別館△441～6018
中部・名古屋市東区東新町4 イースタンビル206室放芸内 △971～8551
九州・福岡市橋口町 電通ラテ企制部内△75～7331～9
北海道・札幌市北大通西5丁目 電通内 △26～5111
中国・広島市的場町152 電通内 △61～4261

放送作家ニュース

発行
協同組合 日本放送
社団法人 日本放送
東京都中央区銀座電通
発行人 大
編集人 岩

新理事会発足す

更に躍進を

昨年三月発足した協同組合も一年を経過し、その間着々と地固めをおこなって来たが、初年度の役員の任期は一年となっており、このほど改選された。

まず、組合員総意の代表にあたる総代の選出が、各支部毎におこなわれた。各地区とも定員が増員され、後記の如く、東京四十三名、関西八名、中部二名、九州二名、北海道二名、中国三名の計六十名が決定。

ついで、五月十五日の通常総代会において理事の選出がおこなわれ、郵便投票用紙を同席上で開封し、上位十五氏（別掲）が選任され承認された。

五月二十五日、新理事による理事会が開催され、互選の結果、理事長に大林清氏、常務理事に寺島アキ子氏がそれぞれ再選された。

同日、各委員会委員長も任命され、六月十二日には各委員会の委員委嘱も決定し、それぞれ別掲のような運営体制が出来上った。

新たな発展を期す年度であり、今後二年間の任期中、委員のみの活躍に終らぬよう、組合員の積極的な協力が望まれる。

総代

（東京）阿木翁助、秋元松代、飯沢匡、生田直親、伊藤海彦、猪俣勝人、伊馬春部、岩間芳樹、植草圭之助、内村直也、梅田晴夫、永六輔、大垣肇、大倉左兎、大林清、岡本愛彦、小野田勇、菊田一夫、キノトール、金貝省三、小松君郎、佐々木恵美子、菅原卓、田井洋子、高橋辰雄、田中澄江、高橋玄洋、玉川一郎、筒井敬介、寺島アキ子、樋口行夫、碧田忠元、長沖一、廣木義一、三田純一、茂木草介（以上八名）

（関西）秋田実、西住春行、土井晴一（以上三名）

（中国）黒崎秀明、宮田隆、吉田文五（以上三名）

常務に寺島氏それぞれ再選

委員会の運営体制なる

組合員の連帯感を

大林清

協同組合創立当初の役員の任期は一年と定められているので、今回改選が行われ、不肖私がもう一期理事長をつとめることになった。

組合設立に踏み切った当時は、実のところどの程度までの業績を挙げられるか見当がつかなかったが、過去一年を振り返ってみると、理事者並びに会員諸氏の努力と協力に依って、予想を上廻る成果を挙げ得たようである。

然し何分にもまだ一年である。子供は生後一年で立ち歩きが出来い。

組合の仕事はきわめて地味にたり、しかも大層であって、私たちの仕事に由とそび立っているが放送作家相互の強靱な連帯感をザイルとして、何とか踏破したいものである。すくなくとも私たちの任期中に、IWGの参加団体として、各国の作家組合に伍して遜色のないところまでこの組織を強化出来ればとひそかに念願している。

日本で初の職能組合に

寺島アキ子

協会の常務理事を二年やり、昨年組合が発足してからは初年度の常務理事をやりました。その三年間、協会や組合の仕事の合い間に自分の仕事をするといった有様で、正直言ってほんとうに疲れてしまいました。殊に、組合ができてからは、仕事もどっと増え、事務局の人たちもそうだったでしょうが、わたし自身も働いても働いても仕事が片附かない状態で、なんとか組合を軌道に乗せたら一休みしたいと思って頑張ったのだけれど、年度末にはまだあれもやらなければならない、これもやらなくてはといった状態でした。できたらほんとうに一休みしたいところだったのですが、でも、予期せぬ事もあって、そんならもう一度頑張ろうかという気になってしまいました。今はそれをチョッピリ後悔していますけれど、でも、引き受けた以上また頑張ろうと思っています。

今年は、商工組合への組織変えという大きな仕事があります。日本の文芸、芸能界での最初の職能組合として、今後組合化する同種団体のお手本になるような組合になりたいものだと思っています。

協会発行・月刊紙「ライターズ」

八月二十五日創刊号がでる予定です。（詳細は三面四面をごらん下さい）

第七回日本放送作家協会賞受賞者

◎最優秀番組賞
NHK「現代の映像」
社会問題を追跡し、深く掘り下げたすぐれたドキュメンタリー番組であり、文明批評の面でも新分野を拓いたことに対して——。

◎演出者賞（テレビ部門）
今野　勉（TBS）
連続テレビ番組「七人の刑事」における斬新な企画とすぐれた演出に対して——。

◎演出者賞（ラジオ部門）
田辺春夫（NHK）
NHKラジオドラマにおける卓抜な演出と、ラジオドラマの地方作家を育成した功績に対して——。

◎男性演技者賞
中村錦之助
NETテレビ「錦之助シリーズ」およびTBSテレビ「真田幸村」において示したすぐれた演技力に対して——。

◎女性演技者賞
佐藤オリエ
フジテレビ「若者たち」において示した、庶民的で大胆、新鮮な演技力に対して——。

◎大衆芸能賞
獅子てんや・瀬戸わんや
誠実なマナーで、常に精進を重ね、芸域を広げ、健全な大衆娯楽を創り出していることに対して——。

◎CM作品賞
パイロット万年筆株式会社
「パイロット・ショート」CMで、商品の特性をわかりやすく、しかも明るくリズミカルで健全なCMとして創りあげていることに対して——。

◎新人脚本賞
渡辺やえ子
作品「町」「バラのとげ」に対して——。

◎新人脚本賞
蕪木理代
作品「蓉の河原の鬼ン婆」に対して——。

第四回久保田万太郎賞受賞者

高橋玄洋作「いのちある日を」
社会性、人間性を深く追求した創作態度を堅持し、自己の作風を集大成したオリジナル脚本を執筆したことに対して——。

小野田勇作「おはなはん」
豊かなキャラクターを創造しオリジナリティに富んだストーリーで多数の視聴者に感銘を与え、今日のテレビドラマ番組に一時代を画したことに対して——。

新人脚本賞部門も新設

第七回協会賞 中村錦之助氏ら

久保田賞は高橋玄、小野田氏

第七回日本放送作家協会賞及び第四回久保田万太郎賞の贈賞式は、五月十五日午後五時三〇分より帝国ホテル孔雀の間において行なわれた。参会者は放送界や関係各界、協会員など五百名にのぼり、式後、受賞者を祝福してなごやかなパーティにうつり、午後八時盛会裡に散会した。なお今回より、従来の企画賞部門とTRG賞（特別賞）部門を廃し、かわって最優秀番組賞部門と新人脚本賞部門が新設された。

五時三〇分、開会を待ちわびる満員の参会者の中を、ホステスに誘導されて受賞者が入場、控え席に着席した。高らかなファンファーレとともに、植草常務理事が開会の辞をのべ、式典の司会者、協会員の狩野新を紹介、狩野氏が司会者の位置についた。

続いて阿木理事長が登壇、参会者に挨拶をして、受賞者への贈賞式にうつった。

贈賞は、まず第四回久保田万太郎賞の高橋玄洋、小野田勇両氏から始まり、ブロンズと賞状が阿木理事長から手渡され、両氏はそれぞれブロンズを手に、参会者に挨拶した。

続いて、第七回日本放送作家協会賞の贈賞にうつり、最優秀番組賞の「現代の映像」、演出者賞の田辺春夫、今野勉両氏、新人脚本賞の渡辺やえ子、蕪木理代両氏、CM作品賞のパイロット万年筆株式会社、大衆芸能賞の獅子てんや・瀬戸わんや師、女性演技者賞の佐藤オリエ氏、男性演技者賞の中村錦之助氏の順に賞状とブロンズが贈られた。

受賞者の挨拶に続いて、来賓の祝詞があり、剣木文部大臣代理・文部省文化局長蒲生芳郎氏、日本放送協会会長前田義徳氏代理・NHK芸能局次長加藤稔氏、日本民間放送連盟会長足立正氏代理・民放連専務理事酒井三郎氏からそれぞれ受賞者を祝って挨拶がのべられた。

そのあと、受賞者に花束が贈られ、高橋玄洋氏には旗の会から、小野田勇氏には、おはなはんの樫山文枝さんから花束が贈られた。

またNHK「現代の映像」スタッフには作家のきた・みのる、曾野綾子両氏から、今野勉氏には友人一同から、田辺春夫氏には東京放送劇団から加藤道子さんの手で、獅子てんや・瀬戸わんや両氏には天地総子さんと石井祥子さんのお二人から、パイロット万年筆株式会社には、株式会社電通から、渡辺やえ子さんにはTBSの津川溶々さんから、蕪木理代さんには、放送作家教室卒業生有志から、佐藤オリエさんには、お父さんの友人である画家の朝倉摂さんから、中村錦之助氏には、女優の宮城千賀子さんからそれぞれ花束が贈られ、受賞者たちは、カメラの放列と参会者の拍手の中で、にこやかに贈り手と握手して花束を受けた。花束贈呈が終ると、参会者の中から衆議院議員辻寛一氏が音頭をとって全員で乾杯、つづいてなごやかな懇談パーティに移った。

またパーティのはじまりに、金貝式典委員長より、協会賞のために協力をいただいた関係者へ感謝の挨拶があり、協会賞パーティの名物となっている「沖正宗」の樽酒の鏡抜きが行なわれ、参会者に桝が配られた。

てんや・わんや師の名コンビによる漫才やゴールデンヴェールの歌などのアトラクションもあり、終始華やいだふんいきのうちに、八時、大林清氏の手じめの音頭でパーティを終り、散会した。

発行所□社団法人日本放送作家協会□編集人　大倉徹也
東京都中央区銀座西8—10　電通西別館第4号□571—0278・0882

第二回通常総会と第三回日本放送作家協会賞授賞式典は、四月二十二日（月）に、新橋、第一ホテル・新館に於いて開かれる。

社団法人化後一年を経て、発展の途にある本協会にとって、この通常総会と協会賞は誠に意義あるものといえよう。

文化事業を強力に推進

通常総会で報告

昭和三十八年度、第二回通常総会は、四月二十二日（月）午後三時、第一ホテル新館会議室において開かれる。

会議は主に昭和三十八年度事業計画など、総会提出書類の検討などが行われるが、各地支部長の出席もあって、全会員の総意による年一回の盛大な会になることが予想されている。

第二回通常総会の議事次第はおおむね左の通りである。（議長は理事長大林　清）

1、あいさつ　会　長　久保田万太郎
2、一般報告　理事長　大林　清
3、業務報告　常務理事　北条　誠
4、事業報告　同　西島　大
5、財務報告　財務委員長　田井　洋子
6、事業計画および収支予算についての事項
7、事業報告および収支決算についての事項
8、財産目録および貸借対照表についての事項
9、その他についての事項
10、支部長あいさつ
関西支部長　長沖　一
中部支部長　谿　溪太郎
九州支部長　荷谷　瑛之介
北海道支部長　近藤　洋

尚、係では、全会員が一堂に会する年一回の総会ではあり、社団法人化後一年を経過した今日、協会は益々強固な文化事業団体として発展すべく、その途にある現状故出来るだけ多数の会員の出席を得て今後の協会の活動に会員の総意を反映させたいと希望している。

第三回「日本放送作家協会賞」

特別功労賞に故吉田秀雄氏など

八部門十受賞者きまる

「第三回日本放送作家協会賞」の受賞者を決める第七回理事会は三月二十三日、放送連合会会議室に於いて開かれ、さきに検討審議された協会賞特別委員会提出の受賞者選考案につき報告の結果、これを万場一致で承認、ここに八部門（内二部門は二者）十者の受賞が決定した。

第一、二回と同様に、第三回も昨年末より会員の二回にわたる投票を行い、三月二十一日に、協会賞特別委員会を開いて、受賞者選考案をとり決めた。そして二十三日の理事会でこれを承認し、第三回協会賞受賞者が正式に決った。

今回はこれまでの七部門に加えて、電通前社長故吉田秀雄氏の放送文化の振興に寄与した功労は、特に顕彰すべきであるということから、今回だけ特に「特別功労賞」を設けたものである。

右のほかは凡そ第一、二回を踏襲したが、授賞式典は、協会賞にふさわしい更に充実したものにすべく種々考慮されている。

受賞者

△企画賞　中川忠彦（NHK）
△演出者賞　ラジオ部門　田南一郎（NHK）
テレビ部門　橋本信也（TBS）
△男性演技者賞　芦田伸介
△女性演技者賞　大空真弓
△スポンサー賞　三共株式会社
△TRG賞　夫婦百景（NTV）
△サンキュー賞　東京放送劇団
△同　ニッポン放送効果団
△特別功労賞　故吉田秀雄

授賞式及びパーティは二十二日に行われるが、授賞者

協会賞ブロンズ像

この像は、柳原義達先生造型による「明日への希望」を表わしたものであります。左手に持つ"ふたば"は出発点の意。この賞を得て、改めてこれを起点として、精進していただきたいという願いをこめて、造られたものであります。

製作・高原美術鋳造。
様式・約三十センチ。ブロンズ像。

―協会賞記念講演会―

放送文化の振興のために

この協会賞記念講演会は、文化事業団体である当協会が初めて主催するもので、一般を対象に放送文化に関するより高い見識と関心を盛り上げようとするものである。

✻とき、4月23日（火）午後6時開演
✻ところ、朝日講堂（有楽町・朝日新聞）

……プログラム……

1司会　水谷八重子
2挨拶　理事長　大林　清
3挨拶　受賞者　中川忠彦
4講演　〃作家の立場〃　橋本信也
〃オン・エアされる迄〃　大空真弓
〃ドラマの歩み〃　東京放送劇団　三木鮎郎
ニッポン放送効果団　内村直也
5TV映画「煙の王様」（TBS）
――昭和三十七年度芸術祭受賞作品――

係では、一般から多数の御来場を要望している。

澄みきった青空に心をこめて

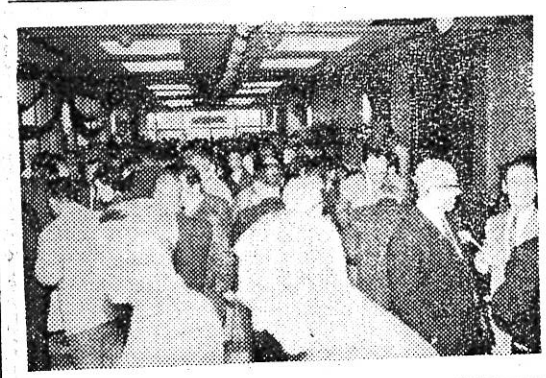
〃故吉田秀雄氏を偲ぶ会〃ひらく

既報「故吉田秀雄氏を偲ぶ会」が快晴の四月二十二日、霞ガーデンで開かれた。

各界知名人が発起人代表（当協会久保田万太郎会長も）となって催されたもので、会場には故吉田氏と親交のあった方がた約五百名がつめかけた。当協会からは大林理事長、北条常務、大倉理事が出席した。

庭園に設けられた演壇の上に飾られた吉田氏の遺影と、その両側に並べられた故人とゆかりの深い万国旗を前に、先ず参会者が手に手に持った色とりどりの風船を合図と共に放した。折りからの風と全員の拍手に舞いながら、皇居の森の高空に、まるでそれが天にある吉田氏への感謝となつかしさを表わすかのように、真青な大空に吸い込まれて行った。

会は、正力松太郎氏、上野十蔵氏、徳川夢声氏らが起って故人をしのび、そのあとパーティに移ってこもごも故人のありし頃を語り合った。



司会　E・H・エリック
楽団　山田たかしとトロピカルメロディアンズ（予定）
照明　今井　豊

☆授賞式終了後、凡そ六時半頃からパーティに移ります。

大空真弓さん

一、企画賞　NHK　中川忠彦
二、演出者賞
（ラジオ）田南一郎
（テレビ）TBS　橋本信也
三、スポンサー賞　三共株式会社
四、TRG賞　〃夫婦百景〃スタッフ
五、サンキュー賞　東京放送劇団
ニッポン放送効果班
六、特別功労賞　故吉田秀雄
七、男性演技者賞　芦田伸介
八、女性演技者賞　大空真弓

各賞贈呈及び受賞挨拶

五、同　NHK放送総局長　斎藤正
六、同　民放連会長　春日由三
足立正

放送文化の花ひらく
故久保田会長もお元気に談笑

☆☆☆

「第三回日本放送作家協会賞」授賞式典及び記念祝賀パーティは、去る四月二十二日午後五時半、第一ホテル新館に於いて挙行された。関係官庁・放送局・代理店関係者・放送芸能人など各界からの知名人四五〇名の参会者が、受賞者に心からの祝福を贈り、歓談に時を過した。

定刻午後五時半、協会賞授賞式典は常務理事北条誠氏の開会宣言によって、その幕を開いた。

E・H・エリックの司会により、先ず、会長久保田万太郎氏が登壇して、挨拶した。

会長挨拶　久保田万太郎

本日はお忙しい処をお集り下さいましてありがとう存じます。日頃私ども放送作家と関係深い各界の皆様と共に「第三回日本放送作家協会賞」の授賞式典を行い得ますことは、この上もない歓びとするところであります。

思えば、昭和三十四年九月十八日、本協会設立以来幾多の紆余曲折はありましたが、皆様の御協力により、日一日とその地歩を固めて参ることが出来ました。

更に、昨年四月三十日には、文部省より社団法人の認可がおり、新たに文化団体として生まれ変り、ますます放送文化の向上のために努力を続けております。

本日の授賞式は、日頃お世話になっております皆様へ、ささやかなる感謝のしるしとして、会員六〇一名の総意を結集して開くものでございます。

何卒、皆様におかれましては、今後ともわが協会に対し御支援、御鞭撻を賜ります様切にお願い申し上げますとともに、放送界の発展を祈って私のあいさつと致します。」

（授賞式で挨拶する故久保田会長）

理事長挨拶　大林　清

「本日はご多忙中にもかかわらず、多数お出でいただきまして、誠に有難うございます。

ただ今、会長のお言葉にもございましたが、この日本放送作家協会賞も第三回と回を重ねまして今や社会的にも認められる賞となりつつあります。これも偏えに皆様のおかげと感謝致しております」

大林理事長

祝辞　文部省社会教育局長　斎藤正氏

「本日、協会賞の各部門におきまして受賞された方々に心からお祝いの言葉をのべさせていただきます。また、放送作家協会が三十四年に発足以来、昨年度からは社団法人として再発足し、種々の事業をされて放送文化の発展のためにつくされておりますことに対して心から敬意を表する次第です。

文部省といたしましても、芸術祭に、おけるラジオ、テレビドラマの募集その他で、会長はじめ協会の方々にいろいろでやっかいになっておりますことをこの機会にあわせてお礼申しあげたいと思います。

今後、放送作家協会がますます発展されるようお祈りして、お祝いの言葉といたします」

文部省社会教育局長　斎藤正氏

祝辞　日本放送協会会長　阿部真之助氏
（放送総局長　春日由三氏が代読）

「最近のわが国放送界の発展は、まことに目覚ましいものがあり、ラジオ・テレビの聴視者層が日を追って増加しつつありますことは、御同慶にたえないところでございます。

しかし、この放送界の発展は、一に放送を内側から支える作家各位の御協力御支援によるものでありまして、これなくして今日の発展を見ることは不可能であったと申しても過言ではないのであります。その上、貴協会におかれましては、一昨年より「日本放送作家協会賞」を設けられ、明日の放送の向上充実のために貢献されてまいりましたが、本日は当NHKも、企画賞、演出賞、サンキュー賞を受賞する光栄に浴しました。貴協会は昨年以来ラジオのための振興策を推進せられ、ラジオ・テレビ併立時代におけるラジオのために積極的な御協力を賜わったのでございますが、今回はからずも、企画賞、演出賞においてラジオ関係者がその対象に選ばれましたことは、私どもにとって更に二重の喜びでございました。

ここに本日の式典にあたりまして、貴協会の御活動に対し心から敬意を表するとともに、今後の御発展をお祈りする次第であります。」

NHK阿部会長の祝辞を代読する春日総局長

祝辞　日本民間放送連盟会長　足立正氏
（参与久我桂一氏が代読）

「本日、第三回の授賞式がこのように盛大に行なわれましたことはご同慶にたえません。

私たち民間放送の番組ならびに関係者の中から、テレビ部門の演出者賞、TRG賞そしてサンキュー賞が選ばれましたことは、大変名誉であり、厚くお礼を申し上げます。

日本放送作家協会の放送文化向上発展に寄与せられたる広範囲の活動に敬意を表するとともに私

民放連足立会長の祝辞を代読する久我氏

民間放送が発足以来順調に成長しましたが、前途にはまだまだ解決すべき幾多の問題をかかえており放送、とくにテレビのもつ社会的影響力が、強力であるだけに、その使命と責任は重大であり民間放送の番組が一層国民に親しまれ愛されるものとなるよう努力すべく決意を新らたにしている次第です。

今後、皆様方の倍旧のご協力とご支援をお願いし日本放送作家協会の一層の発展を期待して、本日のご挨拶といたします。

以上で祝辞を終り、いよいよ賞状・ブロンズ像の贈呈式に移った。

順次各受賞者が登壇して、大林清理事長が読みあげた賞状を、久保田会長が授与した。次いで協会員らがブロンズ像を、受賞者の友人らが花束をそれぞれ手渡した。

受賞者のことば

企画賞　中川忠彦氏

「企画賞というものをいただいて、実は大変まごついております。と申しますのは、企画ということは……私、いろいろ考えてみたのですが、自分一人で企画をしたという憶えが一向にございませんで、たとえば「架空実況放送」というのは西沢実君とおそばを食べながら、もそもそと話しているうちにできあがったものですし、「佐渡夢幻曲」は土岐先生に紅茶をごちそうになりながらなんとなくおしゃべりしている間にできたものでありません。その他、いろいろと企画的なことがございますが、それらはいつもお茶を飲みながら…いや、だいたいにおいてお酒を飲みながら、もそもそしているうちにできたものでして、いうなれば、たいへん怠惰な時間に、それができたように思われて……それが演出とか演技とかとの違いではないかと思っていますが、私は今、その怠惰をほめられているような気持でいます。いずれ放送作家協会で怠惰に対する賞というものを作られましたら、その第一号というものを、また私にいただきたいと思います。どうもありがとうございました」

中川　忠彦氏

演出者賞（ラジオ）田甫　一郎氏

「この度、演出賞をいただいて、たいへん自分でも驚いている次第です。というのは、芸術祭で最近は演出者賞という個人賞がございませんので、部門賞をいただいているようなものでありまして、われわれの仕事は、作家の先生方に書いていただいたものを演出して、出来がよければ、作品がいいんだというように言われますし、まあ、そういうものだと思っていたのですが……私自身、まだ演出ってことがよくわからないのに、このような賞をいただいたことを意外に思っております。今後ますます努力しなければと思っております。ありがとうございました」

故久保田会長より賞状を受ける田甫氏

演出者賞（テレビ）橋本信也氏

「だいたい晴れがましいところは、結婚式以来生まれて二度目ぐらいでして……俳優さんには色々注文を出して、結構ずうずうしいことをやっていますけど、今はちょっとあがり気味で……。放送作家協会の皆様方には、いつもたいへん無理なお願いやあるいは不義理を重ねていまして……しかも突然、こういう賞をいただきまして大変申訳ないと思っております。この仕事に入りましてすでに十二年近く……飲む日は欠かしたことはございませんが、しかし、同時にスタジオにもずっともぐりっぱなしで……これからも、やはり、定年のくるまでスタジオにしがみついていたいと思っております。作家の皆様方に、今後ともよろしくお願いいたしておきます。どうもありがとうございました。」

橋本　信也氏

TRG賞　夫婦百景・番組関係者
代表・緒方　勉氏

「たいへんご立派な賞をいただきましてありがとうございます。お祝い言葉もないくらいびっくりしたり出来ないたちで、この「夫婦百景」というということで始ったんですが、そして、も少し続けてくれというので、二、三回続けることにしました。すると続けてくれっていうので三十回から五十回までこぎつけに約束してまいりようと五十回ぐらいになると、だんだん気が大きくなってきまして、百回まで…た。それで百回近くになってきたらだんだんおうしくなって、このあとほうっぷれるおうじゃないか、ということで、百回ささかやぶれかぶれみたいな格好で、百六十回をむかえてしまいました。なを見ながらしのび入ったような感じでおかしいんですけども、その途中で、こな賞を皆様からいただいて……これじゃぶれかぶれじゃやってられないので、このとう駄馬にむちうっても、もう少しがんばかなきゃならないという風な考えをスタッ持っているような次第でございます。まあ、だけ回数を重ねて今年で六年目をむかえまこれも作家の皆さん方の脚本の力に負うこと常に大きいわけでして、その点皆さんの御協力が私たちの努力よりも、もっと大きいかいます。また、このまる五年の間、スポンサ冨士電機が調子の悪いときもいやな顔をせいたいことも言わずに、われわれスタッフのようにさせてくれたということも、この番組日まで続いてきたゆえんだと思っております様、ほんとに いろいろとありがとうございました」

受賞者

▽企画賞　中川忠彦（NHK）
▽演出者賞
　ラジオ部門　田甫一郎（NHK）
　テレビ部門　橋本信也（TBS）
▽男性演技者賞　芦田伸介
▽女性演技者賞　大空真弓
▽スポンサー賞　三共株式会社
▽TRG賞　夫婦百景（NTV）
▽サンキュー賞　東京放送劇団
▽同　ニッポン放送劇団
▽特別功労賞　放送劇作家

第Ⅲ回日本放送作家協会賞（授賞記念パーティー）

授賞式後、超満員の会場でのなごやかなパーティ。

スポンサー賞　三共株式会社

代表・副社長河口静雄氏

「今回、放送作家協会から三共株式会社がスポンサー賞をいただくことになったと聞いて、実はびっくりしたようなわけでございます。いいスポンサーとしていただくのか、あるいは悪いスポンサーとして表彰されるのか、過去をふりかえったりしてみたようなわけでございますが放送文化に貢献したんだと、そういうことでいただけるのだとわかって安心したようなわけでございます。今日は本当にどうもありがとうございました。

かえりみますと、民放開始以来、ラジオ東京ではじめた故野村胡堂先生の「銭形平次捕物帖」を皮きりに「日真名氏飛び出す」あるいは「三共文芸テアター」と、今日まで続けてまいりましたが、関係者の皆様のご協力を得まして、今日のような表彰を受けることになりましたことを厚くお礼申し上げます。

われわれ、最近テレビを見ておりますと、外国映画が非常に氾濫してきております。貿易自由化後はより多くなるのではないかと考えられます。しかし映画の面においても、また作家、演技者、あるいは制作者にしても、外国のものに負けない高い水準に達しているんだと考えております。

どうぞ、今後とも皆様方もわれわれも一緒になって、外国に負けないいいものを作ってゆきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。本日は ほんとうにありがとうございました。

賞状を受ける三共の河口副社長

サンキュー賞　東京放送劇団

代表・巌金四郎氏

「劇団のものも個人としては何人か受賞の対象とされたことはございますが、劇団単位で受賞の対象ときされたのは今回が初めてでございます。個人が受賞するよりか、はるかにはるかに大きな意義があると思います。非常に感謝いたしております。

壇上に並んで挨拶する東京放送劇団員

サンキュー賞　ニッポン放送効果団

代表・加納米一氏

どうも本日はありがとうございました。

私のほうも全員でごあいさつする企画をたてておりましたところ、放送劇団が先に出たので、まねをするようなことになりますけど、やはり全員舞台に上がり、皆様にご挨拶申し上げたいと思います」

（効果団全員が並んで舞台より挨拶）

故吉田秀雄氏に代って賞を受ける雪技夫人

挨拶する加納米一氏

余計なことを申し上げるよりもみんなで一緒にお礼を申し上げたいと思います」（このあと劇団員が舞台に上がり、東京放送劇団の歌を合唱した）

特別功労賞　故吉田秀雄氏

（挨拶電通社長日比野恒次氏）

「故吉田社長を忘れて電通は無いのであります。吉田社長が、生前「僕は電通だ」という言葉を申されたことがありますが、結局、自分というものは電通から別の人間になれない、という意味だったろうと思います。

今日、特別功労賞として、故人のつくされました業績に対し御表彰いただきましたことを感謝いたしますとともに、後を引き受けました私はじめ電通一同は、このことをよく肝に命じ、故人の業績を偲びつつ、さらにその偉業を立派につぐよう努力しなければならないと、おれを申し上げます。

「只今舞台の公演で大阪へ参っております。今日出席出来ないことをたいへん残念に思っております。

私のような しょっちゅう稽古を 遅くれたりする、いわば行儀の悪い俳優が、こういう立派な賞をいただきますと、まあ、これからは台本片手に稽古場からスタジオへ、スタジオからセットへと飛びまわるわけにもゆかなくなるんじゃないかと心配しております。人生も四十を越して後半期に入りますと、何となく老いさきの短かさを感じたり、またなんとなく足もとに弱さを感じたりするものだそうですが、私の場合は、今が人生の最盛期であり、一番の働き盛りだと思っておりましただけに、それだけに今度の受賞はたいへんうれしく、またまた新たな意欲をもやして、皆さんにご迷惑をかけたり、あるいは怒らせたりすると思いますが、これからは意欲あまって勇み足だけはしたくないと思っております。ひとつひとつを、たんねんにたんねんにやってゆきたいと思っております。どうもありがとうございました。」

（録音テープの声の挨拶より）

芦田伸介氏に代って ブロンズを受けとる民芸の 下元勉氏

女性演技者賞　大空真弓

「皆様ほんとに今日はありがとうございます。さきほどから、皆様からおめでとうっていうお祝いの言葉をいただくたびに、うれしさがだんだんふくれあがって、今はもう幸せの頂点で破裂しそうなんです。

それで、今日ほど、役者っていいなあっと思ったことはありません。すべてととのえてくださったなかで、自分の好きな芝居をすることができてそしてご褒美がいただける……こんなうまい話っていうか、幸せなことは、ほかにないと思っております。しかし、そのなかで、私には今まで見られなかった新しい、高い階段が私の前に現れたような気がいたします。その階段を踏みはずさないように、立派に登ってゆけるように……どうぞ、皆様のお力を、これからもお貸し下さいますようお願いいたします。ほんとにありがとうございました。

花束を手に 喜びの言葉を述べる 大空真弓さん

第四回ラジオの会

第四回ラジオの会は五月二十三日、不二越ビル地階・キリンビヤホールにおいて開かれた。

放送局、報道関係者、協会員多数が出席して、今後のラジオ文化の振興について話合った。

当日の出席者は、（放送局）北海道（幹事）東北放送、毎日放送、RKB毎日、ニッポン放送、文化放送、東京放送の七社、（新聞社）スポーツニッポン、東京、熊本日日、京都の四社、（協会側）会員十名である。なお、第五回は六月中に東北放送（時田氏）の幹事役で開かれる予定である。

放送批評懇談会創立

放送批評の確立をめざして

かねて世話人会が中心となって、その準備を進めていた「放送批評懇談会」は、四月十六日に創立総会を開催し……放送に関する批評ならびに評論活動を振興し……という目的からなる規約を定め、会長に渋沢秀雄氏を選んで、ここに正式に発足した。

かねてから〝放送批評の確立〟のため放送批評の団体を設けるべきであると関係者の間で話が進められていたが、ようやくその準備が成り四月十六日民放連第一会議室において「放送批評懇談会」の創立総会が開催れた。

「日本の放送の健全なる発達と放送文化の国際的活動を振興し、会員相互の親睦をはかるを目的」としたもので、その事業は左の通りである。

1、放送に関する研究　調査および発表
2、優秀なる企画並びに作品の発掘および推奨
3、放送倫理の確立および昂揚
4、放送に関する啓蒙および宣伝
5、一般視聴者及び放送関係者との交流並びに批評活動の振興
6、放送関係の企業体、団体および官庁への提言
7、放送文化の国際的交流および交歓
8、会員相互の親睦および融和
9、会誌の発行
10、その他前各号の目的達成のため必要な事業

創立総会では、同会の規約審議のあと、会長に渋沢秀雄氏の他副会長・理事・監事らの選出が行なわれた。（後出）

この懇談会は、放送批評に直接たずさわる人はもちろんその他放送界で活躍されている人も評論家的な面で加わることになっている。

またこの会の事業については前記規約の通りであるが、めざすところは放送文化全般にわたる諸問題につき、独自の立場でこの発展に寄与しようというもので、特に放送ドラマの質的向上に主眼を置く模様である。

この懇談会のねらいについて、和田矩衛事務局長は、次のように言っている。

「大きく言えば放送批評ということだが、とにかく放送批評というもの自体にかなりの問題がある。例えば、現在の批評は、放送されてしまったあとを追いかけるので、一般の人は「それが良い作品だ」と教わったところで見られない。批評する側も無責任な傾向に走り易いし、その批評が正しいかどうか判定も出来ないのでは、放送文化の向上という意味からもあまり感心しない。

テレビ映画の増加などで、今後放送前に見られるようになれば大変具合が良いので放送局側も大いに協力してほしいと考えている。

私見ですが、懇談会本来の仕事のほかに放送局、代理店、放送作家らの共同研究の場を設けるとか、放送文化向上の為のあらゆる面での仕事をしてゆきたいと思っている。

又、われわれの意志を表現する場として、機関誌の発行も是非実現させたい。これによって、放送局のディレクターやスポンサーらにわれわれの考えをわかっていただきたいと思っている」

五月二十二日現在、手続きを終えていない会員を含めて、一四四名が入会している。

☆役員一覧（敬称略）

会長　渋沢秀雄
副会長　南江治郎
理事　阿部欽一　薄井昭夫
内村直也　梅田晴夫
遠藤慎吾　大木豊
加藤守雄　金久保雅
金沢覚太郎　志賀信夫
塩沢茂　鳴地孝麿
白井隆二　並河亮
野崎茂　波多野完治
船越章　和田矩衛
監事　菅原卓　田口柳三郎

尚、事務局長は和田矩衛、事務はとりあえず放送連合会事務局員佐藤万千子さんにおねがいしている。

五月二十五日に第四回理事会を開き、理事長に内村直也氏を選任し、併せて今年度の事業方針を明確化することになった。

放送文芸研究室

39年度 第三回 通常総会開く

実の結束強まる

三日午後三時より協会賞授賞式典に先駆に於て盛大に行われ、会員九十四名がりなく終了した。三十八年度は種々問題これを基点として会員の結束がいよいよれた。

林清

提を発し北た。我々意思い、事月末に監年に至り、明した。コミが虚偽協会の内部したが、良識ある態協会の威信ところとなマスコミの恐として採り考え、声明書内部の動揺、会員の自主もマイナスで同きの姿勢をうた。

組織の充実に久保田賞、C人会も放送作なりCM教室文化の発展に全国的組織化は事柄である。員の研究機関と相互の交流と団対外的成果から者有している。スト」も充実し、ていると思う。事業は必ずしもったが、財政的、思うようには目標であった側作活動の育

日本放送作家協会

第4回協会賞授賞式

第四回日本放送作家協会賞授賞式は、四月二十二日午後五時より第一ホテル新館において行われた。各界の著名人三百名より受賞者は心からの祝福の拍手を受け、式後パーティにつつり、なごやかな歓談に時のすぎるのも忘れ、八時散会した。なお、今回より大衆芸能賞、CM作品賞が新たに設けられた。

五時二十五分、華かに演奏開始、会場の灯りを落し、正面のプロンズにスポットが当てられ、来賓着席、五時三十分、場内照明一せいに点火されて祭典の幕があげられた。

石川常務理事の開会の辞があり、桂米丸さんの巧みな司会により授賞式が始められた。

大林理事長のあいさつの後、文部大臣の「第四回授賞式に当り、受賞者各位の晴の栄誉をたたえ、益々ご活躍のほどを祈る」の祝電が披露され、最初に日本放送協会会長阿部真之助氏に代り、放送総局長春日由三氏が、わが国放送界の発展は誠に目覚しいものがあるが、これはひとえに、内側から支える各位のご支援によるもの…と祝辞を述べられ、次いで、日本民間放送連盟会長足立正氏の祝辞を、放送事務理事西井三郎氏が代読、民放

放送文化の祭典開く

喜びにわく各部門受賞者

仕事をやってもらいたいと、ユーモラスに話された。最後に、シナリオ作家協会常務理事笠原良三氏が立って、ますます互いに協力しあって、作家としての生活の向上、研さん、日本文化に資するような団体でありたいと思うと祝詞を述べられたあと、いよいよ授賞式にうつった。

下さる俳優さん、スタッフさん、こういう人たちの一つの成果をほくが独りで取ったような、こそばゆい気がします。みなさん、ありがとうございます。【日本放送協会第一文芸部＝山口淳氏】

◇男性演技者賞

（テープ）重大な責任を感じます。この栄誉をこれからの芸能生活の糧にさせて頂きます。【東宝企画制作部＝藤村延二氏】

◇スポンサー賞

◇CM作品賞

第一回の栄誉に浴し感激しています。CMは余りいいイメージをもたれていないということは、若干の問題が残されているのではないかと思うので、これからも頑張っていきたいと思います。【博報堂企画制作部＝藤村延二氏】

◇大衆芸能賞

私はウールの織工でございます。ウールは丈夫で値が安いんで…。この賞はウールの職工に賞をくださったものと涙を流して喜んでおります。百才までは、まだ三十五年ありますから、ずっと織り続けるつもりです。材料を提供下さる先生方よろしく。【古今亭小柳】

◇女性演技者賞

これからも、少しづつていねいに、キメ細かいお仕事をさせていただきたいと思っています。今後ともどうぞ、どうぞよろしくお願いいたします。【中村メイコ氏】

◇CM作品賞

私どもは、内容を邪魔しないようなCMを何時も作りたいという念願で一杯です。今後とも一生懸命やるよう張切っていますのでご支援下さいますよう。【電通タップ一同の努力、又特にこれの協力をしていただいた東京放送の関係者の各位にお礼申しあげます。

【大映テレビ室＝武田天氏】・

◇演出者賞（テレビ）

どうも立派な賞ありがとうございました。【NET＝八橋卓氏】

◇演出者賞（ラジオ）

はっきりいって、本のないところに演出が成り立たないということ、実際に仕事の場で協力して

◇女性演技者賞

これからも、少しづつていねいに、キメ細かいお仕事をさせていただきたいと思っています。今後ともどうぞ、どうぞよろしくお願いいたします。【中村メイコ氏】

◇CM作品賞

私どもは、内容を邪魔しないようなCMを何時も作りたいという念願で一杯です。今後とも一生懸命やるよう張切っていますのでご支援下さいますよう。【電通

ご理解、制作者、ご熱演下さるタレントの皆様に心から厚くお礼申しあげたいと思います。【近畿日本鉄道＝泉市郎氏】

◇TRG賞

このようなハデやかな賞をいただくことは、何か長年の労苦をねぎらってくださったことなのだろうと、大変うれしく、ありがたく頂戴いたします。【日本放送協会第一文芸部＝梅本重信氏】

◇サンキュー賞

チロリン村が八年続きましたのも、全部のアンサンブル、それに加えまして、日本中の子供たちの声援があったからです。…ということを全部含めまして、ありがとうございます。【劇団「やまいも」＝小沢鉄造氏】

◇大衆芸能賞

私はウールの織工でございます。ウールは丈夫で値が安いんで…。この賞はウールの職工に賞をくださったものと涙を流して喜んでおります。百才までは、まだ三十五年ありますから、ずっと織り続けるつもりです。材料を提供下さる先生方よろしく。【古今亭小柳】

◇CM作品賞

第一回の栄誉に浴し感激しています。CMは余りいいイメージをもたれていないということは、若干の問題が残されているのではないかと思うので、これからも頑張っていきたいと思います。【博報堂企画制作部＝藤村延二氏】

◇スポンサー賞

○……◎

第二回理事会において委嘱された評議員は左のかたがたである。

秋田実、飯沢匡、内海重典、川口松太郎、木下順二、郷田恵、斉藤豊吉、高橋邦太郎、館直志、田中澄江、谷屋充、辻久一、徳川夢声、中江良夫、西沢実、長谷川幸延、八田尚之、久板栄二郎、北条秀司、真船豊、村上元三、八木隆一郎、依田義賢

業務報告

石川年

著作権法は本年新法に改正される機運になっているので、審議委員かとかく使用者側に有利に動きそうになっているのを食い止めていきたい。著作権上の苦情も二、三出た。TV映画の無断再放送問題で、TV映画の著作権は明確でない現状からも、ますますといった形で解決した。その他構成ものの料率をあげ、拘束料を要求する問題については、民放4社と接衝し昨年11月協会案をまとめ、本年4月10日付回答があったが、その内容を検討中である。また放における演芸物の使用料のアップも楽観は許さないものがある。学校放送の再放送料については、大体NETが主であるが、1年間だけ再放送料は支払わないという内約があったらしいので、それを4月からその間適当なお礼をするということで支払われている。

次に、昨年来、いわゆる野末問題がおこり、各位のご努力で平静に復し今日に至り、また若尾徳平氏のあとの事務局のことを大倉左兎氏に担当していただいている。

なお支部関係については、昨年5月中国支部が発足し3月31日現在の会員数は六五二名。クラブ活動に対しては随時援助を行い、演芸作家クラブ、児童文化部会とも健全に発展している。

事業報告

江上照彦

放送文芸研究室は、昨年度、第五期を四月、第六期を十月からと二回にわたり開講した。専科は、前期が第四期の、後期が第五期の修了生をもって各々三ヵ月間の講座を行った。CM教室も右と同様の期間に実施している。

本年度は両教室ともこの四月より第七期を、放文専科については第六期修了生及び一般からの希望者をもってそれぞれ開講した。CM教室同窓会の設立については修了生の要望もあり、協会を中心とした有志による世話人会その検討を経て、九月、創立総会を開いた。発足時の会員数は三二四名である。

機関紙「CM報」は教室の修了生達をバックアップし、広告界での地位の向上と、放送文化の質的向上を目的としてCM委員会で企画され発行した。「放送作家」第一号は五月早々発刊した。

久保田万太郎賞は年度間におけるラジオ、テレビドラマの放送作品の中から最優秀脚本各一本に対し贈呈するもので、選考委員の界の知名人十名の方を委嘱、協会側は理事長を委員長とする実行委員会を構成して運営に当っている。

財務報告

若尾徳平

「放送作家」については、約六十万円の赤字となっており、また取次店や支部に委託し、その未清算分が十四万七千六百四十八円である。第二号を昨年秋に発刊する予定であったが延期している。

講演会は三回東京、富山、岐阜で行った。費用は二十三万六十五円であった。

予算に計上せず実際に収入、支出のあったものに「新人会」がある。作品減削後の返送料も大分かさんでいるので二月から会費を一ケ月百円に値上げした次第だ。

その他、CM教室と放送文芸研究室があるが予定したほど応募者がなく、収入の面で大分割いている。この結果、現金預金の繰越金が百六十八万三千九百七十四円と前年度の繰越金額より七十五万円程少くなっている。結局、当期欠損金が約百六十六万円出た。これは「放送作家」の赤字と、前年度において「放送作家」等の支出を仮払金扱いとしたのを、改めて支出したので、それが約七十万円あるので、以上の欠損金となっているわけだ。残念であるが、その原因の一つに、会費納入状況がかんばしくないということもある。東京を例にとっても一年以上滞納している会員数が百六十六名に及びその額も百二十万円になる。この回収に努力して、三ケ月毎に請求する他に未納額の多い会員には別に書状等により請求している。

【協力をお願いする次第だ。この四月から会員資格規則を定め、会員の滞納が一ケ年以上にのぼりかつ納入催告に応じなかった場合はその会員資格を失うものとし、本年度より入会金を千円に定め、新入会者は入会手続の際会費を六ケ月以上納めていただくことになった。

さて、本年度の予算についてであるが、振興費を新たに「協会賞」「久保田賞」「講演会」「新人会」の四つにわけその個別収支をはっきりさせるようにした。その他、事業部の中で「研究費」とあるのは賛助会員に対する見返り研究費であり、「広報費」とは「放送作家ニュース」等の広報関係の費用であり、「共通費」とは事業部一般関係の費用を指す。

支部報告

関西支部長 長沖一

問題は東京大阪の脚本料格差のこと。民放各社の編成局長と理事長、我々が懇談し是正する方向に向っている。が、実働作家は減ってきつつある。

中部支部長代理 山田万亀

当地はドラマの制作は少い。会員の予備投票の結果に基き四十五名の新理事と監事二名を選出した。三面参照。

11支部長挨拶

関西支部長 沖一、中部支部＝山田万亀、九州支部＝苛谷捷之介、北海道支部＝近藤洋、中国支部＝吉田文五

12質疑応答

イ定款の再検討、総会の運営

ロ放送作家ニュースの編集方針、協同組合化、協会賞部門に対する提案と質疑。（小崎政房氏）

ハ脚色料の引上げ、役員の勤務評定、支部に対するサービスについての質疑。（谷屋充氏）

ニ東京新聞掲載記事に対する態度について。（横光晃氏）

通常総会議事録（抜萃）

1総会成立報告＝事務局担当

理事大倉左兎

出席者

委任状提出者

有効出席者数 九四名

会員数に対する比率五二％ 二四四名 三三八名

2一般報告理事長 大林清

3業務報告常務理事石川年

4事業報告常務理事江上照彦

5財務報告財務委員若尾徳平

6監査報告 監事菅原卓

（提出書類の承認）

7事業計画および収支予算について

8事業報告および収支決算についての事項

9財産目録および貸借対照表についての事項

以上を一括して承認。

10理事および監事の選出

会員の予備投票の結果に基

テレビドラマ

東京都新宿区西大久保1—433

ソノブックス社・テレビドラマ

作品☆☆☆☆

久保田万太郎賞受賞（テレビ部門）……毛利恒之

「十八年目の召集」

久保田万太郎賞受賞（ラジオ部門）……寺山修司

「大神の女」

第11回新人作品コンクール入選第一席……岩亜清隆

「当選率一％」……おきわらやすひろ

放送作家協会放送文芸研究室・第六期卒業作品優秀作

「手術」

特集1☆☆☆☆

テレビに〝芸術は可能か〟

座談会・江上照彦・田村宗雄

特集2☆☆☆☆

テレビドキュメンタリー研究座談会…岡田晋・他

評論・空間文化から時間文化へ……山田宗睦

特集3☆☆☆☆

プロダクション・現状とヴィジョン（後）

座談会・岡本愛彦、羽仁進、岩崎文隆、志賀信夫

評論・羽仁進、岩波映画・吉原順平

連載☆☆☆☆

テレビ俳優入門……岡本愛彦

実践的演出論……和田勉

テレビ作家論（大山勝美）……飯島哲夫

演劇の目……竹内勇太郎

映画評……篠原安慶

月間テレビドラマ評……志賀信夫

月間ラジオドラマ評……川崎九越

6月号・定価200円

TVガイド

本邦唯一のテレビ大衆週刊誌!!

週刊TVガイド!!
そうです
みんなが待ってる
週刊誌です
この一冊があなたに
一週間のテレビ番組の
予定をたててくれます
TVガイドは御家庭に
欠かすことのできない
週刊誌に成長しました

書店または
朝日新聞販売

¥30

一週間のTV番組はこの一冊で!!

総会開く

ある団体の地位確立

午後二時より協会賞、久保「竹の間」において開かれ紛争処理問題等多大の成果促進、放送年鑑の発行等で、それにより、協会もますを確立し、正に設立以来の有にゃる。

（総会書類参照）

文化関係
常務理事　梅田　晴夫

CM教室は協会の事業として財政的にも大きな比重を占めているので広報にも力を入れ当初の目的をほぼ達している。放送文芸研究室は名称をあらため、「放送作家教室」とし、内外の要望により講義内容を検討して新たな構想のもとに運営を行なっている。会報は会員の権益擁護、組合の性格をもった新聞を旗印のもとに編集され、一貫してその方針を推進している。

（総会書類参照）

収支決算及び収支予算についての事項ならびに財産目録及び貸借対照表についての事項

に応じなかった場合は会員をやめていただくというのがあるので、二十名の方にやめていただいた。

予算については事業計画にもとずきほぼ昨年と同じようなものであるが、特にちがうのは協会賞と久保田賞を一緒に計上したことと年鑑を刊行するのでその費用を計上したこと、又講演会を昨年計上したが、実際には実行しなかったし、今年の計画に入っていないのではずしてある。他は諸物価の値上りを加味して計上した。

（総会書類参照）

定款及び会則の変更についての事項　会規委員長　江上照彦

定款47条に「理事会、総会各々以上の議決を経、かつ文部大臣の認可を得なければならない」とあり、変更についてはあらかじめ文部省には本提案の内容を了解していただいておりますので、ここにご提案申上げる次第です。

定款第6条第1項第2号を次の通り改正する。

2　賛助会員　この法人の目的事業を賛助し、会費月額一口五千円以上を納める者または団体。

定款第22条の次に第22条の2を追加する。

第22条の2　この法人に参与若干名をおくことができる。

2　参与は、理事会の議決を経て理事長が委嘱する。

3　参与は、この法人の業務に関して理事長の諮問に応じるとともに、建議することができる。

（拍手により承認）

（総会書類参照）

組合設立についての経過報告

理事　高橋辰雄

社団法人の協会が組合になるのかということで繰返し検討されてきた。社団法人としては著作権の擁護とか団体協約の締結というような組合的色彩をもったものはその範囲を越えたものとなっている。そ

それと、われわれの仕事が海外に拡がりつつあり、既にその著作権問題が多く出ており、IWGとのつながりを考えねばならない。そのために現代のままの性格で良いかということが問題になる。

従来事業協同組合、商工組合といったものを大いに研究してきたが何れもしっくりいかないこともあり、まだ研究の余地はあると思う。いづれ放送界内外の状況変化に処さなければならないだろう。IWGの強力な助言、援助が期待されるので国外の動きなど重視しても一段階上の研究、準備対策を建てねばならないと思う。

促進研究会としては一応その研究段階は終った。（総会書類参照）

IWGへの加入についての事項

仕事はいろいろ国際間の作品の監視だとか作家の権益擁護だとかウタイ文句はあるが加入することによって一番得たという印象を受けたのは、もし組合とTV局で問題が起った場合、IWG加入国制作になるTV映画の輸出はとめる事ができるからその際は通知してくれとの事である。（〝作家ニュース〟参照）

（議長の発言により、IWG加入についての賛否を問い、異議なく加入可決となった）

文芸美術国民健康保険組合についての事項

委員　風早　美樹

会員のうち一一四名、家族・二〇七名が利用している。現在一番問題になるのは保険料の値上げ

会員　小松岩郎

ある。昭和35年加入した時は本人二五〇円であったが、今年4月から本人八五〇円、家族四五〇円となっている。（会報参照）今年は保険料が五割増額されたのに給付の増額まない。これは組合員の高人病が他の組合員より高いため赤字になっているからだ。現在、全額の八〇%をわれわれの保険料でまかない、残りの二〇%を政府とか自治体の補助金に依存している。

四人家族の場合、この組合ですと年間二万六千円払う事になり。これは住民税年間二万二千円の人に当ります。ですから昨年度の住民税が二万五千円以上の方は、この組合に入っている方が得だ。勿論三人以下ですと更に得。独身だと一年に一万二百円で済む。

現在補助金の増額を運動中で、もしそれが認められても、いまの二〇%が二五%になる程度でやはり八五〇円が千円近くになるのではないかと思う。健康診断も保険の対象とするよう働きかける必要があろう。

○支部長あいさつ

中部支部　代理　鈴木新吾

ディレクターと勉強会をやっている。財政的に苦しいので、CM教室その他の事業をやりたいと思っている。

九州支部　帯谷瑛之介

九州と東京ではアンバランスがあり、ディレクターで作っている会ひどいが、当地域内でも地域差が年の目標の一つだ。プロデューサー、ディレクターで作っている会

北海道支部　近藤　洋

当地の場合、ローカルドラマが非常に少くなり、北海道末端の会員はローカルドラマ皆無という状態だ。そういった面も打開したい。

中国支部　吉田文五

昨年もそうであるが、今年はもっと条件が悪くなり、広島を除く各地方局ではライターを必要とする番組がなくなっている。ラジオ中国と支部とユニットで月一本づつラジオドラマを出すということで四月から進めている。

次に質疑応答にうつり、議事録署名人に近藤若菜、寺田太郎の両氏が指名され、その後、CM教室関係に多大な貢献をされた師治郎氏に感謝状を贈呈して五時閉会した。

放送文化の式典にわく

第五回協会賞　第二回久保田賞　受賞者へ祝福

第五回日本放送作家協会賞ならびに第二回久保田万太郎賞の贈賞式は、五月十三日午後五時半より帝国ホテル孔雀の間において行なわれた。受賞者は各界の著名人及び会員四百五十名から心からの祝福を受け、式後パーティにうつり、なごやかな歓談ののち、午後八時すぎ散会した。

五時半、エレクトーンの演奏とともに大林理事長の挨拶があり、ついで寺島常務理事の司会により協会賞贈賞式が行われた。

企画賞の「風雪」スタッフを代表したNHK坂本朝一芸能局長を始め、授賞者一同にブロンズと賞状を贈った。

続いて文部省社会教育局長代理として芸術課長鹿海信也氏、日本放送協会々長代理として芸能局長坂本朝一氏からそれぞれ祝辞があり、次いで社団法人日本民間放送連盟会長足立正氏から「民放大会のため残念ながら出席できませんが、遥かより盛会をお祈りいたします」との祝電が披露された。

その後、受賞者一同壇上に並び東洋シュニアミドル級チャンピオンの川上林成氏から牧伸二氏へ、岡部冬彦氏から「オヤカマ氏とオイソガ氏」スタッフへ、その他各関係者から受賞者へ花束の贈呈が道新幹線の事故により受賞者の茂木草介氏が出席されず、長谷川幸延氏が代って表彰を受け、久保田賞選考経過の報告をかねて芸術院々長の高橋誠一郎氏より祝辞があり、一同乾杯してパーティに移った。途中、滝の家鯉香社中のおはやしに合せて沖正宗の四斗樽の鏡を抜くと云う趣向があり、パーティはますます佳境に入ったところへ茂木草介氏が長沖一氏と共に到着、改めて贈賞式を行なった。

○祝辞

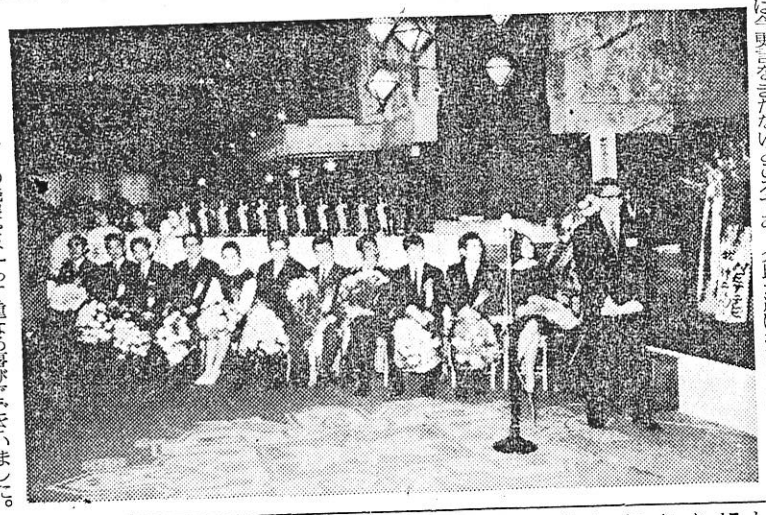
文部省社会教育局長（代理・芸術課長鹿海信也氏）　本年度の日本放送作家協会賞の各部門の受賞者の皆さん、それから久保田万太郎賞を受賞なさいました茂木先生、栄えある受賞を心からお喜び申上げます。おめでとうございました。この日本放送作家協会が社団法人となって早や第四年目にあたり、その間、誠に充実した発展

生のランクに入る協会でございます。これまで充実発展した歩みをつづけてこられた作家協会の役員の先生方、又会員の皆さん方のご熱意とご努力に対し、心から敬意を表する次第でございます。この会に出席していつも思いうかべるのは久保田先生です。私もお酒が好きですが、久保田先生もお酒がお好きな方で、何時でしたか、やはりこの会のパーティの時、私のためにわざわざお酒をご注文下さいまして私に注いで下さいました。非常に暖かい細かい思いやりのあるご接待で、久保田先生のそう云う風をうけつがれたのか、この放送作家協会の毎年の授賞式は非常に暖かい楽しいパーティで、私はいつも楽しみにしております。どうか暖かい魅力ある協会として、今後ますます放送文芸の発展のために皆様がご尽力下さるようお祈りします。

日本放送協会会長（代理・芸能局長坂本朝一氏）　最近の世界の放送界は、シンコム衛星、アリバート衛星などによる宇宙中継を始めとして視聴者を驚嘆たらしめる

は同慶にたえないところであります。しかしながらわが国の放送界の発展が放送を支える作家各位のご努力ご支援によってなされたことは今更言をまたないところであ

はこれに勝る喜びはないのでありますが、実に更に本日は第二回久保田賞に連続TV番組「太閤記」の脚本を担当しておられる茂木草介氏が選ばれたことはNHKにと



り、これなくして今日の発展をみることは不可能であったと申しても過言ではないのであります。貴協会におかれましては昭和三十六年以来日本放送作家協会賞を設けられ、放送界への向上発展に貢献されてこられたことは

って重なる喜びでございました。ここに貴協会のご活動に対して心から敬意を表するとともに併せて将来のご発展にお祈りする次第であります。

論議が戦わされ、脚本そのものに感銘の深いものを選べ、という原則がたてられた。今回、茂木氏と田井氏の脚本を何本か拝見したが茂木氏の作は、実際に放送された際、余りに感銘が深く、全く息づまる思いがしたのでありますが、今夜脚本を読んでみますと感銘がうすいのです。田井氏の脚本は、放送されたものを見も聞きもせず脚本ではじめて見て大変感心させられたのです。そういうことで私と、もう一人の審査委員が田井氏、四人の方が茂木氏ということで、茂木氏の受賞が決ったわけです。

こういう事を考え合せますと、第三回の審査の際は、よほど考え直さなければならんと思うのであります。

○受賞者あいさつ

女性演技者賞

南田洋子さん　さっきブロンズ像をいただいた時に、それまではすごく嬉しかったのですが、手にしたとたんに何かこまびと一緒にこれからの私に対する新しいしかも重い課題を一緒にいただいたような気がして恐くなってきました。胃腸の方も丈夫ではありませんし、消化不良をおこさないよう私のペースで消化してゆきたいと思います。

男性演技者賞

今福正雄氏　私のような地方に居る全く無名の者にこのような名誉ある賞を与えられるということは言葉もないくらいうれしさで一杯です。私は実は賞というものを貰うのは二度目でございまして、最初は小学校の頃昆虫採集で佳作賞に入選し、それ以来のことです。これからも心を新たにし一層勉強をしてゆきたいと思います。

大衆芸能賞

牧伸二氏　去年はレコード大賞がとれなかったので、今年は何かとろう。何もとれなかったらロードショウを見ようかなんて下らないことを言っていたのが、ヒョウタンから駒が出てきました。年甲斐もなく涙なんか流しまして、こんな清廉にほんとに有難うございます。

演出者賞

RKB毎日制作部久野浩平氏　柴田さんもおっしゃったようにいい本がなければ決していいドラマは出来ません。受賞対象になった二つのドラマ、秋元松代先生も安倍公房先生も去年一年間にそれ一本しかお書きにならないというたった一本のドラマでこうした賞をいただいた事は本当にとても嬉しく思っております。

企画賞

NHK芸能局長　坂本　朝一氏

「風雪」はご承知のように昭和四十年が丁度明治百年になるということをねらいとして昨年四月九日に第一回を始めた番組です。大層地味なまた視聴率の面からもかならずしも高い番組でないのですがそのいう番組に対する暖い目を向けていただけたということに対しわれわれ関係者は大変感謝しております。これ＋現実には協会の先生方の作品のご提供によって賞をいただいたといっても過言ではないと思っておりますので、日頃のご協力に対し心から深くお礼を申上げます。

久保田万太郎賞

茂木草介氏　今日は新幹線の故障で五時間遅刻致しました。もう三十分ほどしまして大阪の方へ引返します。どうぞよろしくお願い致します。

「風雪」を惜しむ

当協会賞の企画賞を受賞したNHKの「風雪」は、近代日本の成長過程を克明にドラマ化したものとして各界に好評を得ていたが、九月で大正時代が終るので、一応それで打切りになるのではないかという声がある。真実な企画であっただけ各方面で惜まれている。

太平洋テレビ賛助会員に

株式会社太平洋テレビ（取締役社長清水昭）が六月より賛助会員となった。

演出者賞

LF制作部副部長柴田忠夫氏

日頃私達に脚本を書いて下さる先生方が専門家の立場、作家の立場から私達の演出力を認めて下さったわけで、この点私達の感激も又格別深く大きいものがあります。

植木等氏　今度の受賞作品アイディアルは僕の非常に気に入っているものの一つですが、要するに理解あるスポンサーと協力的な渡辺企画、信和広告の皆さんが、僕のやり易いように話したり説得したり、ディスカッションしたり、目に見えないところで有形無形の努力を重ねられたからだと思います。

演出者賞

TRG賞

TBS第二演出部蟻川茂男氏

「おかあさん」は毎週木曜ナマ放送をしている今時珍しい番組でスタッフも現在制作中でごく一部の者しかこの会に伺う事が出来ず私もこれからすぐ戻って皆にこの賞を見せてやりたいと思います。

CM作品賞

渡辺企画副社長渡辺美佐さん

渡辺企画は発足して一年で、大先輩の信和広告さんと一緒にしたお仕事で、このような権威ある賞をいただけた事を大変感謝しく思っております。植木等も大変喜びまして、只今梅田コマ出演中でございますのでテープでご挨拶致します。

○受賞者あいさつ

女性演技者賞

南田洋子さん　さっきブロンズ像をいただいた時に、それまではすごく嬉しかったのですが、手にしたとたんに何かこまびと一緒にこれからの私に対する新しいしかも重い課題を一緒にいただいたような気がして恐くなってきました。胃腸の方も丈夫ではありませんし、消化不良をおこさないよう私のペースで消化してゆきたいと思います。

男性演技者賞

今福正雄氏　私のような地方に居る全く無名の者にこのような名誉ある賞を与えられるということは言葉もないくらいうれしさで一杯です。私は実は賞というものを貰うのは二度目でございまして、最初は小学校の頃昆虫採集で佳作賞に入選し、それ以来のことです。これからも心を新たにし一層勉強をしてゆきたいと思います。

大衆芸能賞

牧伸二氏　去年はレコード大賞がとれなかったので、今年は何かとろう。何もとれなかったらロードショウを見ようかなんて下らないことを言っていたのが、ヒョウタンから駒が出てきました。年甲斐もなく涙なんか流しまして、こんな清廉にほんとに有難うございました。

一同が育ててくれ、今文化放送の誇りの高い番組です。これからも太く長く息をしていきたいと思いますので、皆様のご援助をお願い致します。

サンキュー賞

フジテレビ制作部小川秀夫氏

この賞は私どもがやりました番組が立派だとかよい出来だったとしていただいたのではなく、これから頑張るようにという激励の賞だと思って、できるだけの事をしていきたいと思っております。

山本富士子さん（みその座より）　今日の権威あるご授賞有難うございました。名吉屋公演のため出席出来ましたことに残念でございます。